

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第665集

あかまえ

赤前Ⅲ遺跡発掘調査報告書

市道赤前上下線道路整備事業関連遺跡発掘調査

2017

宮古市都市整備部建設課
(公財) 岩手県文化振興事業団

赤前Ⅲ遺跡発掘調査報告書

市道赤前上下線道路整備事業関連遺跡発掘調査

序

本県には、旧石器時代をはじめとする1万箇所を超す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。それらは、地域の風土と歴史を生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことのできない歴史資料です。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。

当事業団埋蔵文化財センターでは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によって止むを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、市道赤前上下線道路整備事業に関連して、平成27年度に発掘調査された赤前Ⅲ遺跡の調査成果をまとめたものです。今回の調査により、本遺跡は山裾の緩斜面部には縄文時代中期と平安時代の集落があつたこと、山の中腹部には古代の炭窯や近世及びそれ以降の墓所となっていたことが分かりました。

本書が広く活用され、埋蔵文化財についての関心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました宮古市都市整備部建設課並びに同市教育委員会をはじめとする関係各位に深く感謝の意を表します。

平成29年3月

公益財団法人 岩手県文化振興事業団
理事長 菅野洋樹

例　　言

1. 本報告書は岩手県宮古市赤前第11地割他に所在する赤前III遺跡の発掘調査成果を収録したものである。
2. 上記遺跡の調査は、市道赤前上下線道路整備事業に伴う緊急発掘調査である。調査は岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課と宮古市都市整備部建設課との協議を経て、公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。
3. 岩手県遺跡台帳に登録される各遺跡の遺跡番号と遺跡略号は次のとおりである。
赤前III遺跡：遺跡番号 LG54-1025、遺跡略号 AMIII-15
4. 発掘調査の期間、調査面積、担当者は次のとおりである。
期間：平成27年8月3日～10月15日、11月9日～11月26日（10月16日～11月8日は事業地内の樹木伐採を実施したため、野外調査は中断した）
面積：2,670m²
担当：杉沢昭太郎・藤原雅仁・澤美咲
5. 室内整理の期間は次のとおりである。
平成27年11月1日～平成28年3月31日 担当：藤原雅仁・澤美咲
6. 野外調査における基準点測量・写真撮影にあたっては次の機関に委託した。
基準点測量：㈱鈴木測量設計 空中写真撮影：東邦航空株式会社
7. 遺物の分析・鑑定にあたっては次の機関に委託した。
年代測定：㈱加速器分析研究所
8. 発掘・整理・報告にあたっては次の方々にご指導・ご協力いただいた（順不同・敬称略）。
宮古市都市整備部建設課、宮古市教育委員会、岩手県教育委員会
9. 本報告書の執筆は、I章の調査に至る経過は宮古市都市整備部建設課に原稿を依頼した。II～IV・VI章は杉沢が執筆し図化は藤原・澤が行った。報告書の編集・校正は杉沢が行った。
10. 本遺跡の調査成果は、先に、『現地公開資料』（平成27年）、『平成27年度発掘調査報告書』（岩文振第661集）に発表しているが、本書の内容が優先するものである。
11. 本遺跡の調査で得られた一切の資料は、岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。

目 次

I 調査に至る経過	1
II 遺跡の立地と環境	
1 遺跡周辺の地形	2
2 遺跡周辺の地質	3
3 周辺の遺跡	4
III 調査・整理の方法	6
IV 検出された遺構と出土遺物	
1 概要	13
2 基本層序	13
3 検出遺構	13
(1) 壇穴建物跡	13
(2) 炭窯跡	16
(3) 土坑・陥し穴・墓壙	17
(4) 柱穴	17
4 出土遺物	27
(1) 繩文土器	27
(2) 石器	27
(3) 土師器	27
(4) 陶磁器	27
(5) 銭貨	27
(6) 銅製品	27
(7) 鉄製品	28
(8) 羽口・鉄滓	28
V 自然科学分析	
赤前Ⅲ遺跡における放射性炭素年代(AMS測定)	57
VI 総括(調査のまとめ)	60
報告書抄録	114

表 目 次

第1表	周辺遺跡一覧表	5
第2表	土坑・墓壙類観察表	46
第3表	柱穴観察表	48
第4表	縄文土器観察表	48
第5表	土師器観察表	49
第6表	陶磁器観察表	49
第7表	羽口観察表	49
第8表	鉄滓観察表	49
第9表	鉄製品観察表	50
第10表	銅製品観察表	50
第11表	錢貨観察表	51
第12表	石器類観察表	56

図 版 目 次

第1図	岩手県図	1	第20図	柱穴、陥し穴	25
第2図	遺跡周辺の地形	2	第21図	出土遺物 1	29
第3図	地質図	3	第22図	出土遺物 2	30
第4図	周辺の遺跡	4	第23図	出土遺物 3	31
第5図	遺跡範囲と調査区	8	第24図	出土遺物 4	32
第6図	遺構配置図 1	9	第25図	出土遺物 5	33
第7図	遺構配置図 2	10	第26図	出土遺物 6	34
第8図	遺構配置図 3	11	第27図	出土遺物 7	35
第9図	遺構配置図 4	12	第28図	出土遺物 8	36
第10図	基本土層	13	第29図	出土遺物 9	37
第11図	S I O 1 壺穴住居跡	14	第30図	出土遺物 10	38
第12図	S I O 2 壺穴住居跡	15	第31図	出土遺物 11	39
第13図	炭窯、土坑・墓壙 1	18	第32図	出土遺物 12	40
第14図	土坑・墓壙 2	19	第33図	出土遺物 13	41
第15図	土坑・墓壙 3	20	第34図	出土遺物 14	42
第16図	土坑・墓壙 4	21	第35図	出土遺物 15	43
第17図	土坑・墓壙 5	22	第36図	出土遺物 16	44
第18図	土坑・墓壙 6	23	第37図	出土遺物 17	45
第19図	土坑・墓壙 7	24			

写真図版目次

写真図版 1	北側調査区近景（上が北）	62	写真図版27	出土遺物 4	88
写真図版 2	遺跡遠景	63	写真図版28	出土遺物 5	89
写真図版 3	遺跡近景	64	写真図版29	出土遺物 6	90
写真図版 4	S I O 1 壁穴住居跡 1	65	写真図版30	出土遺物 7	91
写真図版 5	S I O 1 壁穴住居跡 2	66	写真図版31	出土遺物 8	92
写真図版 6	S I O 2 壁穴住居跡	67	写真図版32	出土遺物 9	93
写真図版 7	S I O 2 壁穴住居跡・基本土層	68	写真図版33	出土遺物10	94
写真図版 8	S X O 1 炭窯跡 1	69	写真図版34	出土遺物11	95
写真図版 9	S X O 1 炭窯跡 2、土坑・墓壙 1	70	写真図版35	出土遺物12	96
写真図版10	土坑・墓壙 2	71	写真図版36	出土遺物13	97
写真図版11	土坑・墓壙 3	72	写真図版37	出土遺物14	98
写真図版12	土坑・墓壙 4	73	写真図版38	出土遺物15	99
写真図版13	土坑・墓壙 5	74	写真図版39	出土遺物16	100
写真図版14	土坑・墓壙 6	75	写真図版40	出土遺物17	101
写真図版15	土坑・墓壙 7	76	写真図版41	出土遺物18	102
写真図版16	土坑・墓壙 8	77	写真図版42	出土遺物19	103
写真図版17	土坑・墓壙 9	78	写真図版43	出土遺物20	104
写真図版18	土坑・墓壙 10	79	写真図版44	出土遺物21	105
写真図版19	土坑・墓壙 11	80	写真図版45	出土遺物22	106
写真図版20	土坑・墓壙 12	81	写真図版46	出土遺物23	107
写真図版21	土坑・墓壙 13	82	写真図版47	出土遺物24	108
写真図版22	土坑・墓壙 14	83	写真図版48	出土遺物25	109
写真図版23	北側調査区近景ほか	84	写真図版49	出土遺物26	110
写真図版24	出土遺物 1	85	写真図版50	出土遺物27	111
写真図版25	出土遺物 2	86	写真図版51	出土遺物28	112
写真図版26	出土遺物 3	87	写真図版52	出土遺物29	113

I 調査に至る経過

1 発掘調査に至る経過

赤前Ⅲ遺跡は、「赤前上下線道路整備事業(2工区)」の道路新設工事に伴い、その事業区域内に存在することから発掘調査を実施することとなったものである。

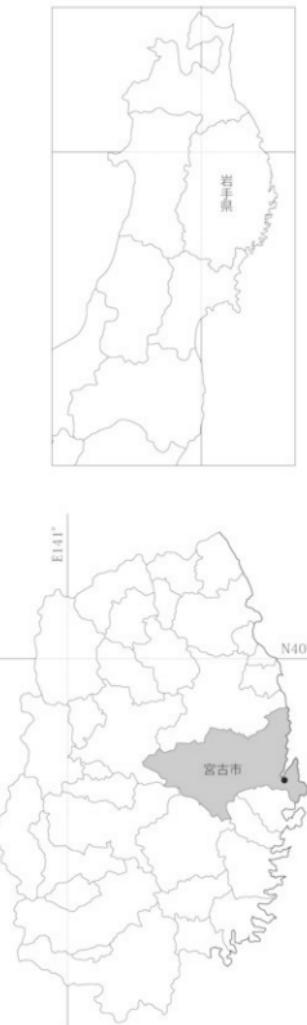
市道赤前上下線道路整備事業は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災により被災した赤前地区において、防災集団促進事業で造成した高台地区と県が新しく整備する主要地方道重茂半島線へ接続し安全性、利便性の高い道路として整備するもので、「安全な地域づくり」を推進するとともに、「すまいとくらしの再建」に欠かせない道路である。

当事業の施行に係る埋蔵文化財の取扱いについては、宮古市都市整備部建設課から平成26年9月19日付建第303号「赤前上下線道路整備事業実施計画における埋蔵文化財の試掘調査について(依頼)」により宮古市教育委員会に対して試掘調査の依頼を行った。

依頼を受けた宮古市教育委員会は平成26年10月22日から試掘調査を実施し、工事に着手するには赤前Ⅲ遺跡の発掘調査が必要になる旨を平成26年12月18日付教文第729号「試掘調査の結果について(報告)」により宮古市都市整備部建設課に報告してきた。

その結果を踏まえて当建設課は、宮古市教育委員会及び岩手県教育委員会の調整を受けて、平成27年7月31日付けで公益財團法人岩手県文化振興事業団との間で委託契約を締結し、発掘調査を実施することとなった。

(宮古市都市整備部建設課)



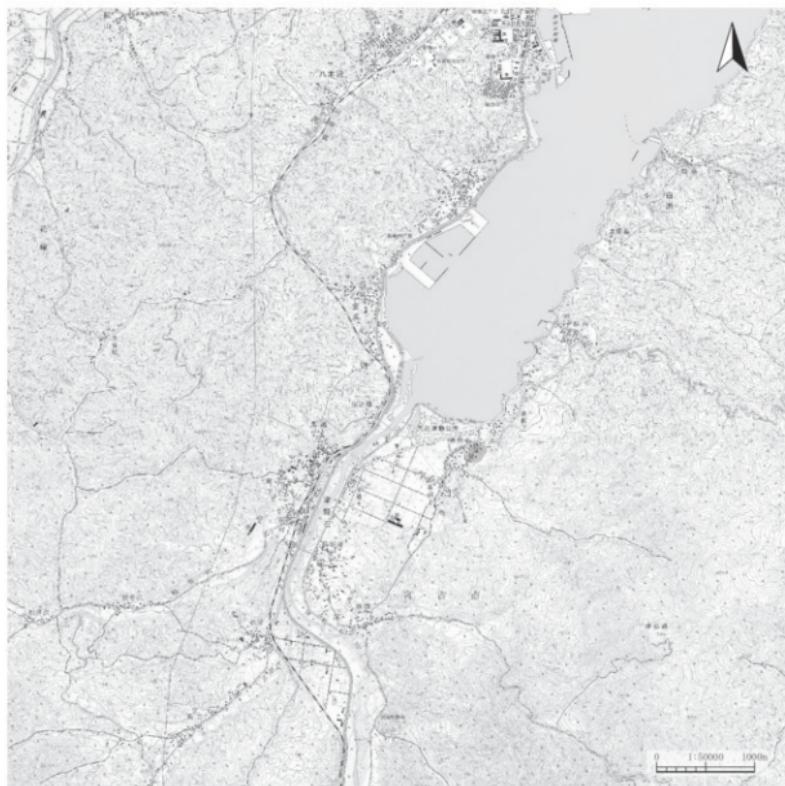
第1図 岩手県図

II 遺跡の立地と環境

1 遺跡周辺の地形

三陸海岸は宮古市を境として、南は沈降性のリアス海岸が続き大小の湾を形成し変化にとんだ景色を見せ、北は隆起性の段丘海岸が発達している。本州の最東端にある重茂半島は北東に向かって太平洋に突出し、十二神山(731m)を頂上とする山塊に占められ縁辺部にわずかな丘陵地を形成する。宮古湾は重茂半島の西側に位置し、リアス海岸の北端となっている。この宮古湾は重茂半島の閉伊崎から湾頭の津軽石川河口までの奥行10kmの北に開いた湾である。水深は湾奥部で20mと比較的浅く、湾内では牡蠣などの養殖が行われている。赤前Ⅲ遺跡は重茂半島を構成する中起状山地から流れ出る小河川により形成された扇状地に立地しており北西向きのなだらかな傾斜上に所在している。

標高は30m前後であり、東日本大震災時の浸水域ではない。



第2図 遺跡周辺の地形

2 遺跡周辺の地質

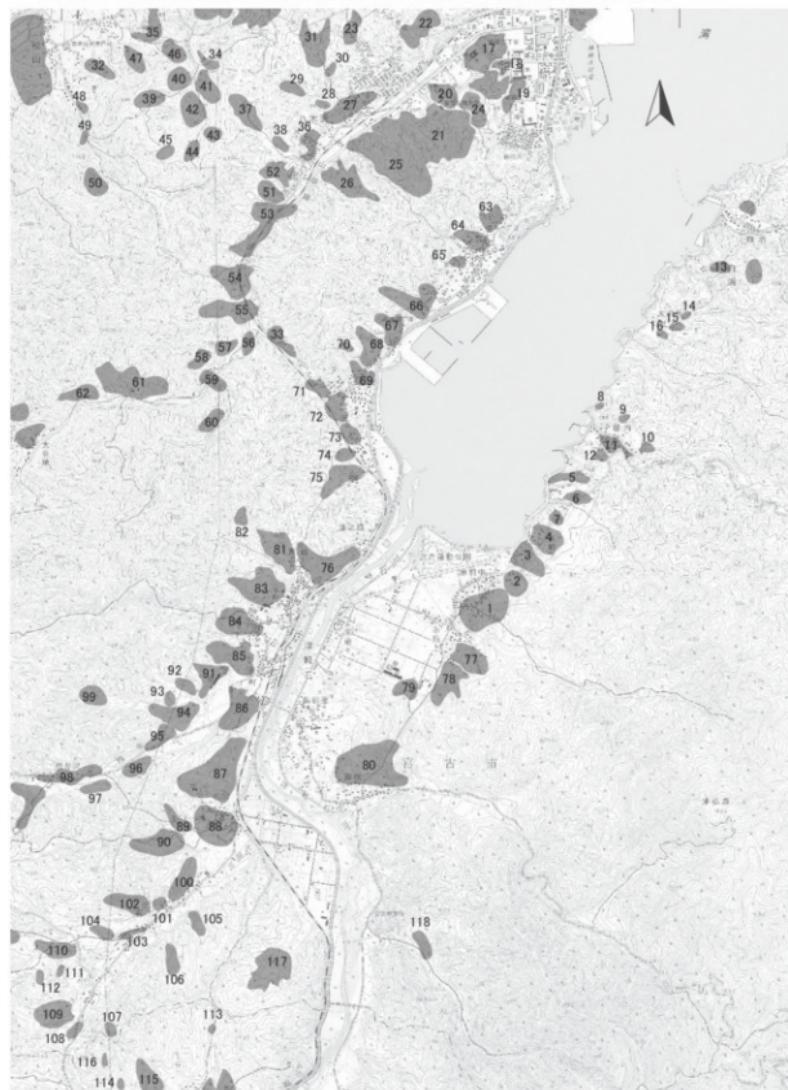
三陸海岸の湾入部の一つであり、リアス式海岸の北端に位置する宮古湾は重茂半島の閉伊崎から湾頭の津軽石川河口までの奥行10kmの北に開いた湾である。この宮古湾の北側では、陸地に深く入り込む湾入地形は認められない。一方で宮古から北方の沿岸陸上地形で著しい現象として、田老から久慈・八戸方面まで高位海岸段丘面の発達が認められる。また、高位海岸段丘面は宮古から南ではほとんど発達がみられない。つまり、宮古を境にして南側は、牡鹿半島までの沈降性のリアス式海岸と北は八戸に至る隆起性の段丘海岸である。赤前遺跡の位置する宮古湾の湾東部東岸は新期河岸段丘及び崖錐堆積物であるため、礫・砂及び粘土で構成されている。遺構周辺は原地山層のデイサイト質火砕岩と大浦花崗岩の角閃石黒雲母アダメロ岩で構成されている。



第3図 地質図

3 周辺の遺跡

今回調査した赤前III遺跡の周辺にある遺跡については第4図及び第1表にまとめた。



第4図 周辺の遺跡

第1表 周辺の遺跡一覧表

No.	遺跡名	遺跡コード	時代	種別
1	赤坂Ⅳ	1654-1025	調文・平安	集落跡
2	赤坂IV八枚田	1654-1098	調文・平安	集落跡
3	赤坂IV柳沢	1654-0989	調文・古代	散布地
4	赤坂IV茶ヶ原	1654-0160	調文・古代・近世	散布地
5	子駒内I	1654-0113	調文・弥生・奈良	集落跡
6	子駒内II	1654-0123	調文	散布地
7	子駒内III	1654-0142	調文・奈良	散布地
8	駒内I	1654-2455	調文	散布地
9	駒内II	1654-2167	調文	散布地
10	駒内III	1654-2290	調文	散布地
11	駒内V	1654-2126	調文	散布地
12	駒内IV	1654-2195	調文	散布地
13	白浜太田原I	1654-1204	調文	散布地
14	白浜太田原III	1654-1271	調文	散布地
15	白浜太田原IV	1654-1282	調文	散布地
16	白浜太田原V	1654-1290	調文	散布地
17	礪跡跡山	1654-2155	調文～中世	集落跡・城郭跡
18	仏塚I	1654-2096	古代	散布地
19	仏塚II	1654-2097	調文・平安	集落跡
20	鳥居I	1654-2099	平安・古代	集落跡
21	鳥居II	1654-0328	古代	集落跡
22	礪跡竹割I	1654-2001	平安・古代	集落跡
23	猪樂跡	1653-2344	調文・古代	散布地
24	礪跡中谷地	1654-0903	古代	散布地
25	木本沢古跡	1653-0357	中世	城郭跡
26	木本沢中谷	1653-0364	近世	集落跡
27	木本沢西側	1653-0312	中世・近世	散布地
28	木本沢守ノ越I	1653-0310	調文	散布地
29	木本沢守ノ越II	1653-2286	調文	散布地
30	木本沢守ノ越III	1653-2372	調文・古代	散布地
31	木本沢守ノ越IV	1653-2351	調文・弥生・古代	散布地
32	松山下谷地	1653-2182	調文・古代	散布地
33	舊の神	1653-2209	調文	散布地
34	木戸井内IV	1653-2149	古代・弥生	散布地
35	木戸井内VI	1653-2149	調文	散布地
36	木戸井I白山下	1653-0300	調文	散布地
37	木戸井II	1653-0205	調文	散布地
38	木戸井四	1653-0238	古代	散布地
39	題壁I	1653-2197	調文・古代	集落跡
40	題壁II	1653-2280	調文・古代	散布地
41	題壁III	1653-2292	調文・古代	散布地
42	題壁IV	1653-0200	調文・古代	散布地
43	題壁V	1653-0212	古代	散布地
44	題壁VI	1653-0200	古代	散布地
45	題壁VII	1653-0138	調文	散布地
46	題壁VIII	1653-2280	調文	散布地
47	松山下堀田沢	1653-2166	古代	集落跡
48	七所沢I	1653-0102	古代	散布地
49	七所沢II	1653-0122	調文	散布地
50	七所沢III	1653-0163	調文	散布地
51	木本沢ラントノ沢I	1653-0279	調文	散布地
52	木本沢ラントノ沢II	1653-0269	調文	散布地
53	木本沢沢5.I	1653-1206	調文・古代	集落跡
54	木本沢沢II	1653-1244	調文	散布地
55	木本沢沢美	1653-1257	調文	集落跡
56	下大谷地I	1653-2206	調文	散布地
57	下大谷地II	1653-2284	調文	城郭跡
58	下谷地堀	1653-2222	調文	散布地
59	下大谷地IV	1653-2233	調文	散布地
No.	遺跡名	遺跡コード	時代	種別
60	下大谷地V	1653-2264	調文	散布地
61	下大谷地VI	1653-2147	調文	散布地
62	下谷地I	1653-2143	調文	散布地
63	高浜I坂ノ下	1654-0095	調文	散布地
64	高浜II今々瀬	1654-1013	調文	散布地
65	高浜羅熊野	1654-1032	調文	散布地
66	高浜IV横須賀	1653-1369	調文	散布地
67	高浜V下地津	1653-1398	調文	散布地
68	高浜VI地神	1653-2316	調文	散布地
69	金舟館	1653-2335	中世・調文	城郭跡
70	金舟堤ニツツ	1653-2314	調文	城郭跡
71	金舟I	1653-2342	調文・平安	散布地
72	金舟II	1653-2363	古代	集落跡
73	金舟III	1653-2384	調文・古代	散布地
74	金舟IV	1653-2394	調文	散布地
75	金舟V	1653-0313	調文	散布地
76	山崎殿	1653-0382	中世	城郭跡
77	岸舟館	1654-1064	中世	城郭跡
78	岸舟I牛子沢	1654-1072	調文	散布地
79	久保田	1653-1389	調文・古代	散布地
80	春座	1653-2346	調文・古代	集落跡
81	高橋I	1653-0268	調文・古代	散布地
82	高橋II	1653-0246	古代	集落跡
83	津輕五大森	1653-1207	調文	散布地
84	沼里	1653-1225	調文・奈良	集落跡
85	沼里殿	1653-1266	中世	城郭跡
86	海平町	1653-2205	中世	城郭跡
87	弘法殿	1653-2264	中世	城郭跡
88	弘川I	1653-2294	調文・奈良・中世	集落跡
89	弘川II	1653-2299	調文・古代	集落跡
90	弘川III	1653-0200	調文・古代	散布地
91	根井沢穴門I	1653-1273	調文・古代	散布地
92	根井沢穴門II	1653-1283	調文	散布地
93	根井沢穴門III	1653-1290	調文	散布地
94	根井沢穴門IV	1653-2201	調文	散布地
95	根井沢穴門V	1653-2129	調文	散布地
96	根井沢日影I	1653-2148	調文	散布地
97	根井沢日影II	1653-2161	調文	散布地
98	根井沢I	1653-2152	調文・弥生・平安	城郭跡
99	根井沢寺ヶ沢	1653-1194	古代	散布地
100	根竹日向I	1653-0157	調文・古代	散布地
101	根竹日向II	1653-0159	調文	散布地
102	根竹日向III	1653-0157	調文・古代	散布地
103	根竹日向IV	1653-0177	調文・平安	散布地
104	根竹日向V	1653-0174	調文	散布地
105	根竹日影I	1653-0272		
106	根竹日影II	1653-0280		
107	根竹日影III	1653-1154	古代	散布地
108	根竹日影IV	1653-1152	古代	散布地
109	根竹日影V	1653-1140	古代	散布地
110	根竹米山I	1653-0190	調文・弥生・古代	集落跡
111	根竹米山II	1653-1111		
112	根竹米山IV	1653-1019		
113	石峰畠	1653-1264	不明	城郭跡
114	石井IV	1653-2116	調文	散布地
115	内船	1653-2109	中世	城郭跡
116	土比ガタI	1653-1195	調文	城郭跡
117	南野沢	1653-1209	調文	散布地
118	大路	1654-1062		

III 調査・整理の方法

野外調査

調査区の設定と遺構の命名

赤前Ⅲ遺跡は調査対象面積が2,670m²とそれほど広くなかったが、調査区は山裾部の緩斜面部と山林だった中腹部とに分かれていた。そのため調査区の地区割にあたって、山裾部分を「南側調査区」、山林となっていた中腹部を「北側調査区」と地区割りしている。

平面直角座標(第X系：世界測地系)に合わせた基準点・補点をもとにして、遺構や地形測量を行つたが、独自のグリッド設定はしていない。

基準点1 X=-45958.205 Y=9632.688 H=32.024m

区割付杭の座標値は第7図に記載している。

この基準点と区割付杭を基準として調査区および検出遺構や出土遺物の記録をとった。遺構外出土遺物に関しては上記の調査区ごとに取り上げた。

遺構の名称

遺構名は遺構の種類に応じて略号を用いた。検出順にそれぞれ番号を付けて、SI01・SI02、SK01・SK02…のように命名した。精査の過程や終了後に検討した結果、遺構ではないと判断したものや、遺構の種類を変更した番号については、混乱を防止するために欠番とした。住居跡(SI)・土坑類(SK)その他(SX)を用いた。

試掘・粗掘(雑物除去)と遺構検出

北側調査区は杉・松を主体とした山林であったため調査中、伐採時に多量に出た樹木(丸太材)及び雑物(枝類)を調査区外へ運び出す作業も行った。それに引き続き調査区の各所にて試掘を行ない重機による表土掘削深度の参考にした。重機で遺構検出面のやや上層まで掘り下げ、続いて人力で掘り下げて遺構検出をした。南側調査区では重機を使わず人力で表土除去を行つている。

精査・実測

検出遺構は、可能な限り基本通りに4分法、2分法で調査したが、複雑に重複する遺構では出来なかつたものもある。そして精査の各段階において必要な図面の作成や写真撮影を適宜行つた。遺構内出土の遺物は、埋土で可能な限り分層して取り上げ、底面出土や残存状態の良い遺物は写真撮影・図面作成後に取り上げた。遺構外出土の遺物については、原則として調査区ごとに出土した層位を記して取り上げ、状態の良いものは写真撮影・図面作成を行つた。場合によりFieldCardにも遺構の調査状況を記録している。

実測・写真撮影

電子平板を使用して平面実測を行つた。レベルは、基準高をもとに絶対高で記録される。断面実測について、任意の高さを基に設定した水糸を基準として計測を行い、縮尺1/20の手書き実測図とした。

写真撮影は、中判1台(モノクローム)、1000万画素以上の一眼レフデジタルカメラ1台を使用して

調査員が行った。撮影に際しては、整理時の混乱を避けるために撮影カードを使用した。実際の撮影は各種遺構の覆土堆積状況、掘り上げ状況、遺物の出土状況などについて行っている。調査終了段階で小型飛行機による航空写真撮影を行っている。

土層注記

断面図作成後に土層注記を行った。観察項目は、色調・土の種類・締まり・混入物などである。基本的には『新版標準土色帳』(1990年版、小山正忠・竹原秀雄編・著)をもとに行っているが、締まりは、調査員の主観で判断した。個々の遺構の覆土堆積状況は、自然堆積か人為堆積かの判断と、埋没している土の起源を把握することを課題とした。層名は調査区内に見られる基本的な土層をローマ数字(I・II・III)、遺構内埋土をアラビア数字(1・2・3)で表した。層位の細分の必要が生じた場合は、小文字のアルファベットを付し、I a・I b・I c・…などと表わした。

その他

今回の調査では約70基の墓壙を調査した。墓壙の時期は近世から近代初頭を中心であり、この中で約25基の墓壙から人骨が出土している。これらの遺骨は野外調査終了後、一括して供養・火葬し宮古市市営墓地の供養塔内へ納骨している(平成28年1月22日)

室内整理

室内整理の期間は平成27年11月1日～平成28年3月31日である。

期間内で、出土遺物・実測図・写真などの整理を行った。野外調査で得られた遺物、実測図、写真などの各種資料は室内整理の段階で次のように処理し、整理を行い、報告書作成とともに資料化を行った。

遺構に関わる記録

実測図は遺構ごとに分類し、図面は点検のうえ、デジタルトレースを行った。電子平板で測量したデータについては、現場で計測した情報をそのまま保存することとし、編集用データは、手実測で記録したその他の実測図と合成し、遺構図版を作成している。

野外調査で撮影した写真については調査区ごとに分類し整理した。その中から代表的な写真を選び遺構写真図版を作成し報告書に掲載している。

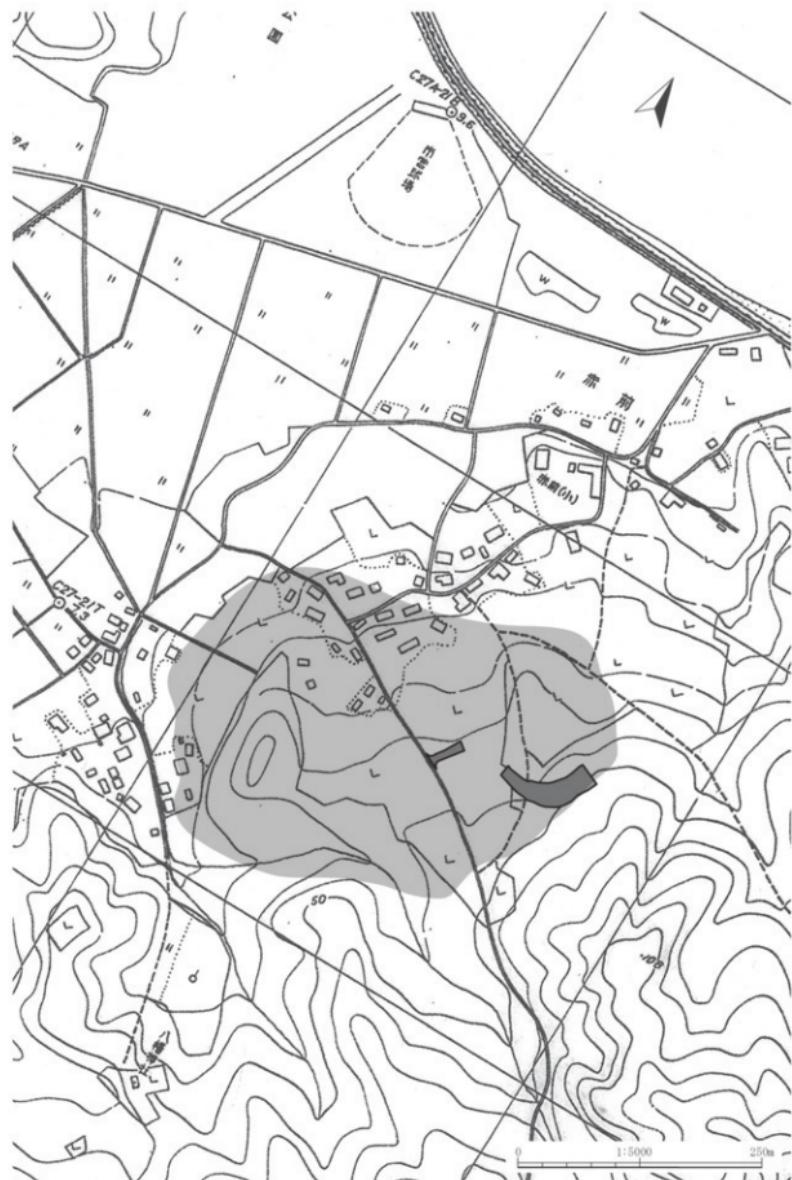
撮影されたフィルムはネガアルバムに密着写真と一緒にして収納した。

遺物の整理

遺物は現地及び当センター整理室で水洗した後、細片は別として、出土地点・層位等を登録した遺物Noを各破片に注記した。その後、出土地点・層位ごとに仕分けを行い、遺構ごと、遺構外出土の遺物は調査区ごとに接合・復元作業を行った。遺物の実測図は実大とし、トレースは遺物の状況に応じて実大あるいは縮小して図化した。放射性炭素年代測定の分析は外部の専門機関に委託した。

遺物の選別・図化の基準

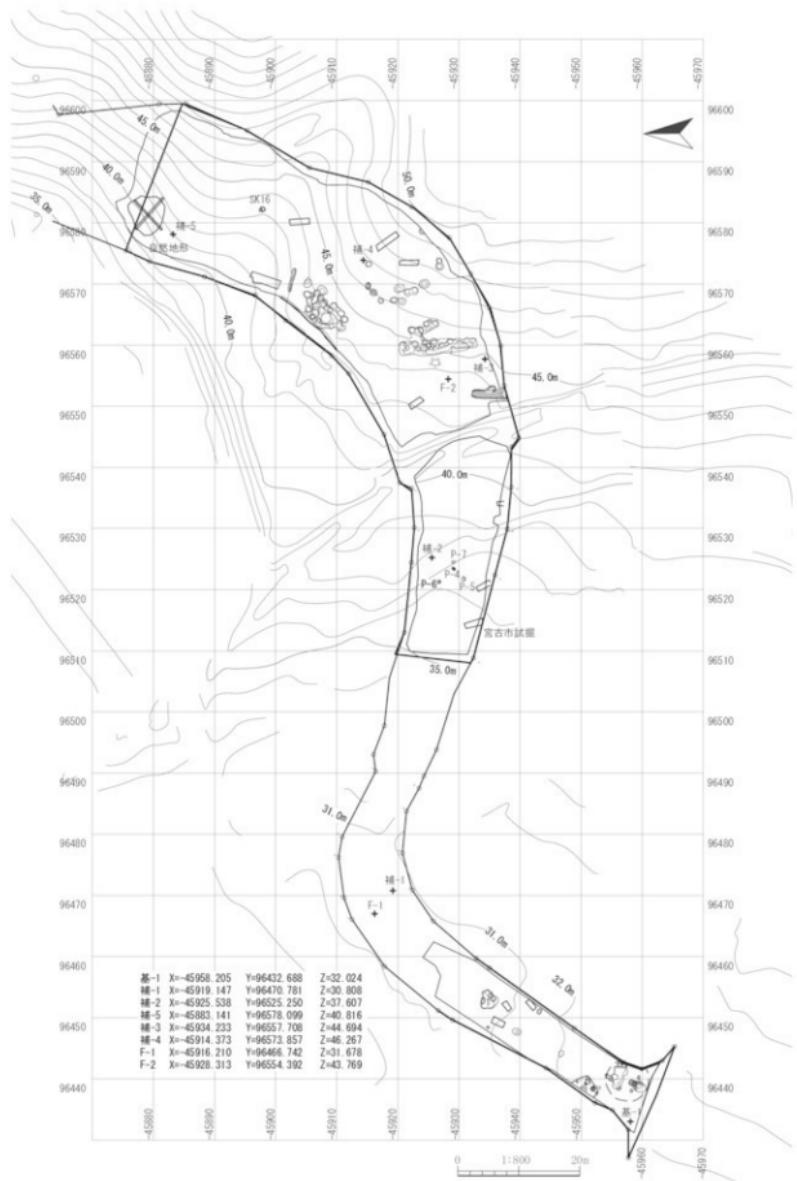
遺物の整理・報告にあたっての作業・記録作成は以下の方針で進めた。報告書に掲載された遺物は出土した遺物のすべてではなく、整理のなかで設定した基準に従って選んだ一部の資料である。各遺構に伴う遺物を最優先し、遺構外出土であっても本遺跡を代表するものについては掲載した。また、各種の遺物については破片数、重量の計測を行い台帳作成している。残りの良い遺物は図や拓本を取り、写真撮影した。そうでないものは写真だけ撮っている。



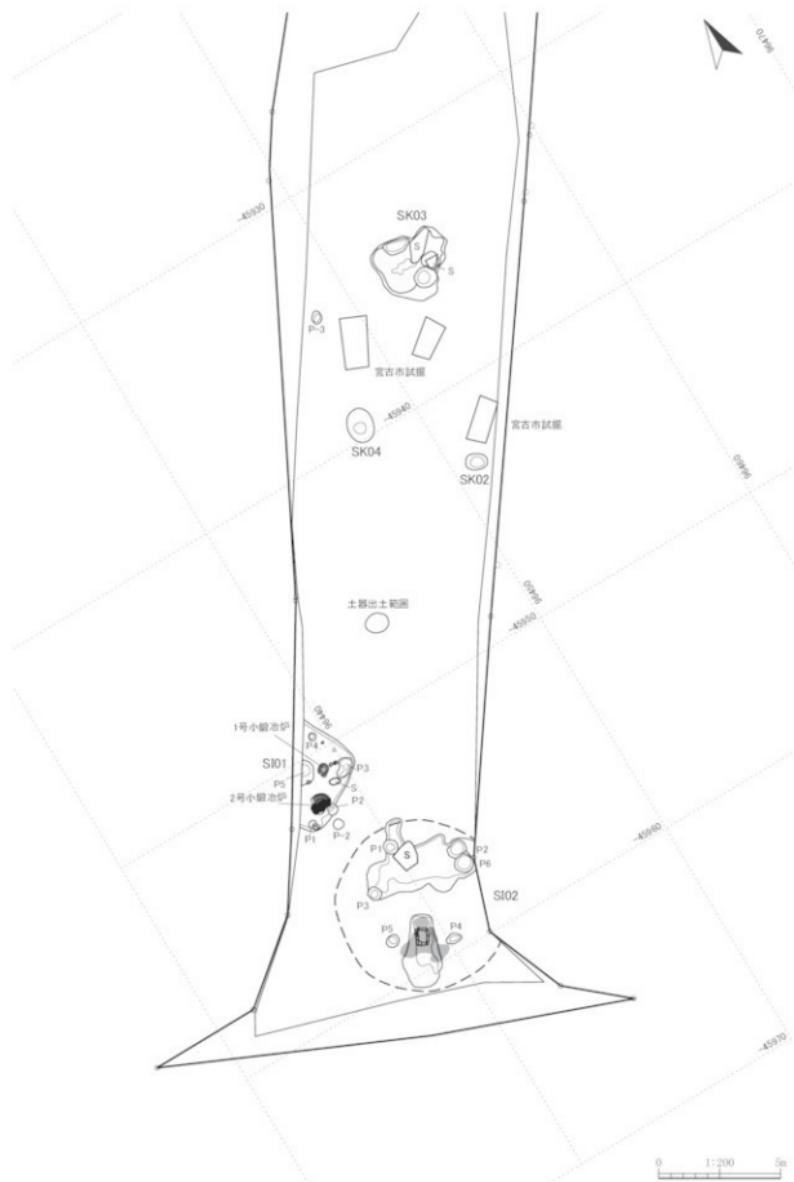
第5図 遺跡範囲と調査区



第6図 遺構配置図1



第7図 遺構配置図2



第8図 遺構配置図3



第9図 遺構配置図4

IV 検出された遺構と出土遺物

1 概 要

本遺跡は宮古市赤前第11地割83-1他にある。遺跡の範囲は東西約300m×南北約250mと広く、現況は大きく分けて南側の住宅地と北側の山林部からなる。住宅地の多い山裾の緩斜面部を「南側調査区」、山林となっていた山の中腹部を「北側調査区」と呼ぶこととした。遺跡の東辺部を調査したことになる。

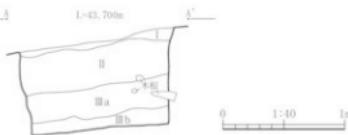
遺構は縄文時代中期後半の竪穴住居跡1棟・土坑2基・陥し穴1基、平安時代の竪穴住居跡1棟・中世の炭窯1基、近世～近代初頭の墓壙73基、土坑6基、柱穴18個が確認されている。

出土遺物は縄文土器と土師器が大コンテナ0.5箱、近世陶磁器0.3箱、銭貨約500枚、煙管・簪・鏡といった銅製品が29点、鉄鍋・刀子等の鉄製品が20点、羽口1点、石器5点が出土した。

2 基 本 層 序

南側調査区は削平されていたため、北側調査区で記録をとった。

- I 10YR2/3黒褐色表土 粘性・締まり弱い
草木根多
- II 10YRA/4褐色土 場所により厚いところと
薄いところがある 粘性・締まりやや有り
- IIIa 10YR5/6黄褐色土 粘性やや有り 締まつ
ている 遺構検出面
- IIIb 10YR6/6明黄褐色土 粘性やや有り 締
まつていてる



第10図 基本土層

3 検 出 遺 構

(1) 竪 穴 住 居 跡

S 1 0 1 (第11図、写真図版4・5)

＜位置・検出状況＞南側調査区の南西側にあり、IIIa層で検出した。柱穴P2と重複するが本遺構のほうが古い。本遺構は北側が調査区外へと続いている。

＜規模・形状＞検出面での上幅は5.7m、床面までの深さが0.2mあり、想定される主軸方向はN-26°-Wである。平面形は方形を基調とすると考えられる。床面は概ね平坦であった。所謂貼り床もなく地山面を基本的には床面としていたようである。壁は0.2m程しか残っていなかったが底面からやや外傾して立ち上がっている。壁溝は無かったが柱穴が3基、やや壁近くで検出されている。

＜埋土＞部分的に炭粒の混じる褐色土や黒褐色土等からなる自然堆積である。採取した埋土16001.2gの中に鍛造剝片が28.26g含まれていた。

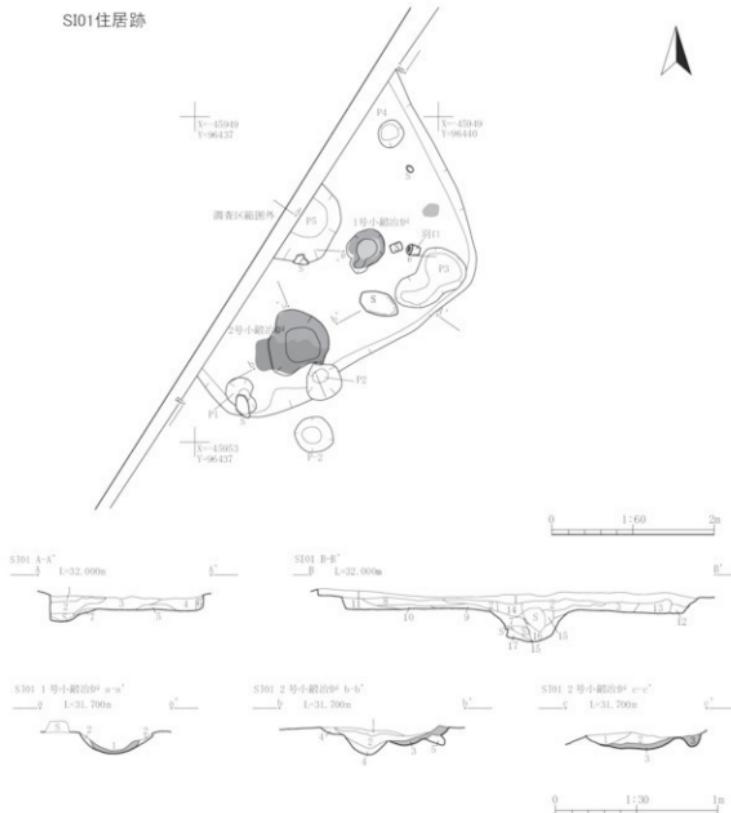
＜1号小鎌治炉＞本遺構の南東部床面に0.7×0.6m、深さ0.2mの掘り込みが確認された。掘り込みの底面には焼けた面と、還元焼成で変色した面とが見られた。掘り込みの南西部には羽口を設置していた痕跡が小さな張出状に残っており、こうした状況から小鎌治の炉跡と判断した。埋土を全て採取

し、その中から鍛造剥片が29.9gを抽出できた。

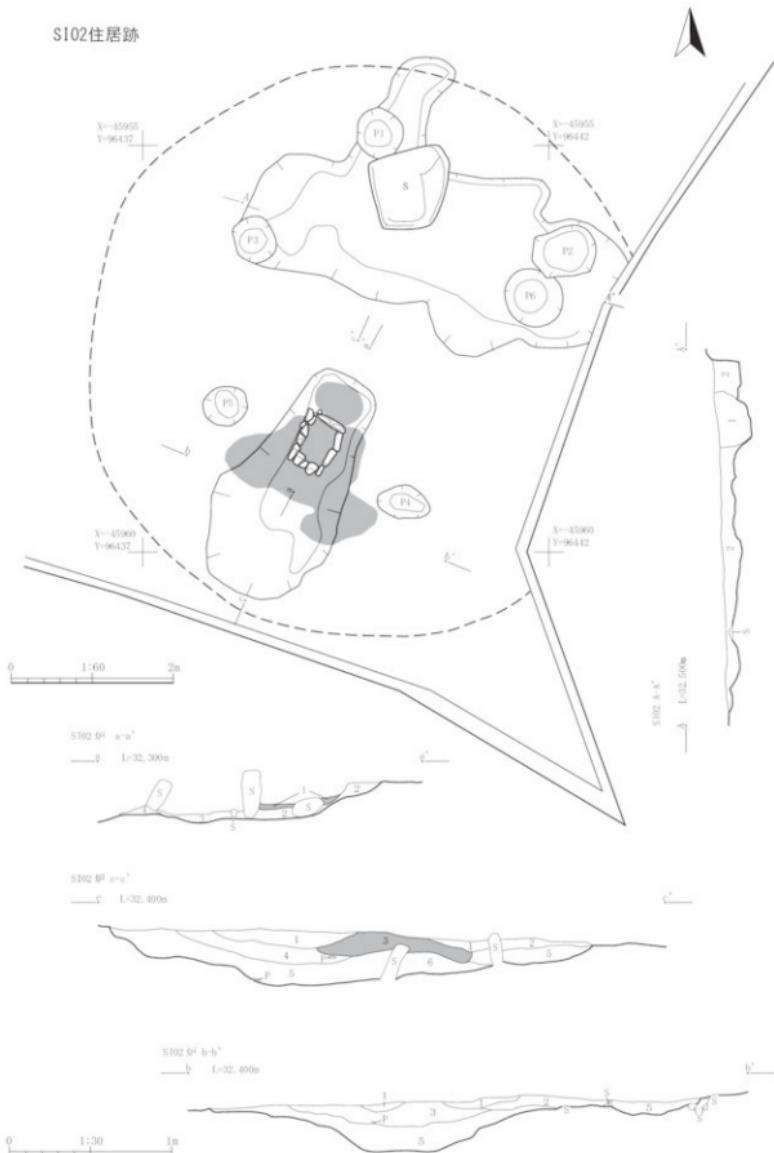
＜2号小鍛冶炉＞本遺構の南西部床面に1.2×1.1m、深さ0.2mの不整円形を呈する掘り込みを検出した。掘り込みの底面は焼けており(3層)、埋土は炭粒を不規則に含む人為堆積であった。この2号小鍛冶炉が先に使われ、1号小鍛冶炉へ造り替えられた時に埋め戻されたと推察される。すべての埋土を採取し、その中から19.36gの鍛造剥片が見つかっている。

＜P5＞本遺構のほぼ中央にある。掘り込み内に0.5×0.4mの礫が入っており、これが金床石(断面図にのみ図示)であったことから、金床石を据えていた場所と言えよう。但し金床石は原位置から少し動いて傾いた状態で出土していた。

＜出土遺物・時期＞(第25図、写真図版24)土師器甕の破片が5点出土している(82~84)。この甕は何れも非ロクロである。羽口(85)が1号小鍛冶炉の南東側で見つかっている。



第11図 SI01整穴住居跡



第12図 SI02 積穴住居跡

<性格>小鍛冶を行っていた空間を有しており、単なる居住のための施設ではなく工房的な利用をしていたものと考えられる。

S I O 2 (第12図、写真図版6・7)

<位置・検出状況>緩斜面地形である南側調査区の南端部にあり、III a 層で検出した。検出段階で既に壁及び床面の一部は削平により失われており、竪穴住居跡とは認識できなかった。炉跡周辺から土器片と焼土粒が比較的多く出土することから不整形な掘り込みに土器や焼土粒を廃棄している遺構と考えていたが、精査を進めるうちに石匂い部が現れ竪穴住居跡であることが分かった。

<規模・形状>削平により本遺構の上場は失われて無い。床面の範囲も明瞭ではなかった。柱穴の配置、貼り床の広がり等から径約8.7mの床面であったと推定した。炉の形状から想定される主軸方向はN-24°-Eである。床面は概ね平坦であったよう北側には貼り床も施されている。壁溝は無かつたが柱穴が6基、炉跡の傍や貼り床の近辺で検出されている。

<埋土>削平により竪穴住居跡の埋土は失われていた。

<炉跡>所謂複式炉であったことが分かった。床面中央付近から南西壁側に向かって燃焼部、石囲燃焼部、前庭部からなる。燃焼部は1.0×0.6mの隅丸長方形に近い掘り込みを持ち、底部には焼けた痕跡が広がる(1層)。石囲部は0.6×0.4mの範囲を円礫と角礫を組み合させて囲んでいる。掘り込みの深さは検出面から約0.3mである。埋土は上位に焼土粒と土器細片を多く含む褐色土が広がっており、底面及びその付近に火を焚いていた痕跡ははつきりとは残っていない。前庭部は石匂い部に接続する掘り込みであるが平面プランが不明瞭であったため掘り過ぎの部分もある。2.3×2.0mの掘り込みで深さは検出面から0.4mを測る。埋土に焼土粒や土器片を多量に含んでいたが、焼成面は無かつた。

<貼床>本遺構の北東部に5.5×2.9mの範囲で不整な掘り込みが見られた。深さも0.5~0.1mと一定ではない。埋土は人為堆積であった。図にも示しているが内部に1.1×1.0mの大礫があるが、持ち込まれたものではなく、もともとこの地にあったもので、本遺構が機能していた段階にも床面から頭が出た状態になっていた。

<柱穴>炉跡の両脇、貼床部付近から計6基の柱穴を確認した。

<出土遺物・時期>(第21図、写真図版24)炉跡を中心に土器が20268.8g出土している。土器片はその場に置かれていたものではなく、破片が炉周辺に散乱した状態で出土している。殆どが縄文時代中期後半の土器片であった。

(2) 炭窯跡

S X 0 1 炭窯跡(第13・17図、写真図版8・9)

<位置・検出状況>現況が山林となっていた北側調査区のほぼ中央部に位置している。検出面はIII a 層とした地山上面である。

<規模・形状>南側が調査区外へ延びているため全体規模は不明であるが、確認できた範囲では長さ5.7m、幅1.5×1.2m、深さは0.5~0.1mを測る。平面形は南北に細長い長円形をしている。削平により本遺構の上場はかなり失われていた。床面は平坦ではほぼ全面が焼けて硬く締まっている。掘り込みの外側(周囲)についても付属施設が無いか精査しているが何も見つかっていない。

<埋土>炭粒を多く含む黒色土及び黒褐色土を主体とする。北側は僅かしか残っていない。

<重複関係> SK 1 4・2 3 墓壙と重複する。何れの遺構より本遺構は古い。
 <時期> 遺構の形態、AMS年代測定の結果から中世の炭窯であろう
 <出土遺物> 本遺構に伴う遺物は出土していない。

(3) 土坑・陥し穴・墓壙(第13~20図、写真図版9~22)

6基の土坑、1基の陥し穴、73基の墓壙を検出した。遺構の検出面は何れも地山上面(Ⅲ層)である。南側調査区では縄文時代の土坑2基、時期不明4基が検出された。北側調査区では縄文時代の貯蔵穴2基と陥し穴1基があり、時期不明の土坑が1基見つかった。そして墓壙(近世から近代初頭)が73基確認されている。

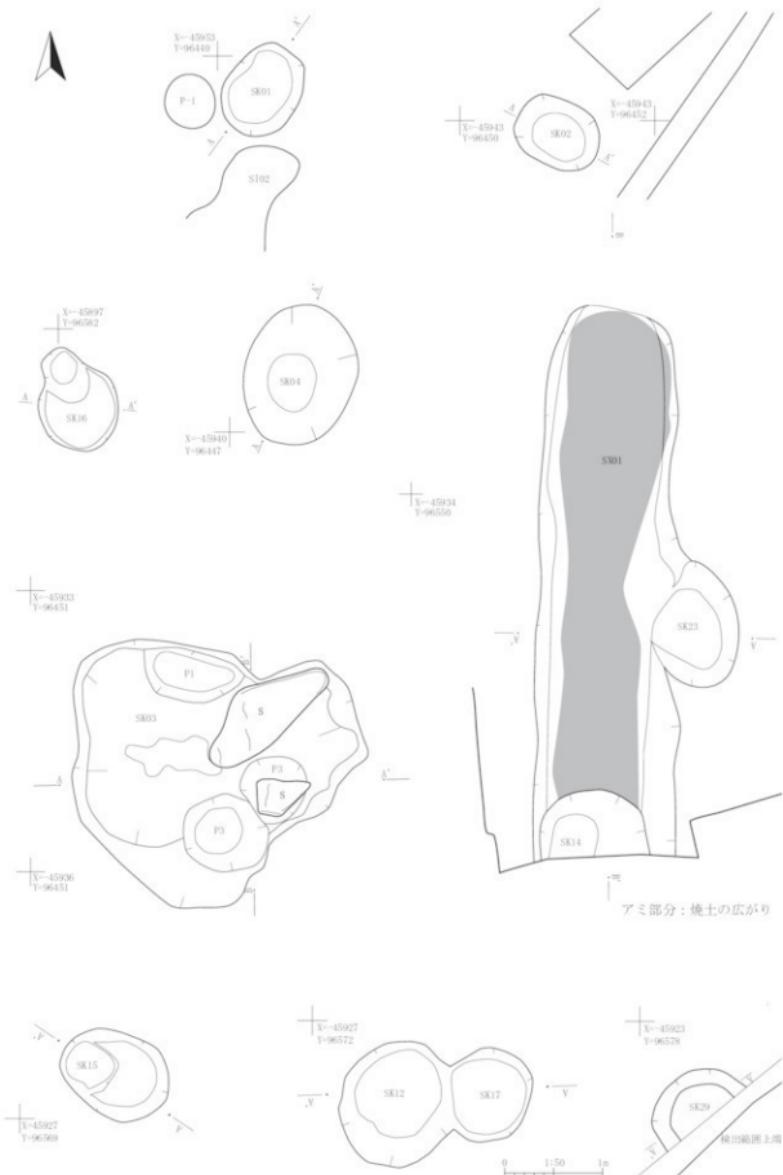
縄文時代の貯蔵穴2基は北側調査区のほぼ中央部に位置している。近くで縄文時代の堅穴住居跡は見つかっておらず、居住域はより斜面を下りた調査区外の北側に広がっている可能性が高い。陥し穴は単独で見つかっており地形的にも調査区外の北側へ続く可能性も低いと考えている。

墓壙は大きく3カ所にまとまりをもって分布している。調査に入る直前まで「墓地」として利用されていた場所が2カ所と、それより少し斜面を上った場所に1カ所である。前者2カ所では事前に改葬されており、重機による掘削痕が認められたが比較的最近(近現代頃)の墓のみを改葬したらしく、古い墓壙や深く掘られていた墓壙等はそのまま残されていた。後者の墓壙群については搅乱されることなく残っていた。墓壙の平面形は円形若しくは隅丸方形となるものが殆どで長円形を呈するものはない。埋土最上部付近に径30~50cmの扁平な礫を1~5個程度置いている例も複数見られたものの、墓石は全て片付けられており、原位置を留めているものは無かった。比較的深く掘られているものが多く、最も深いもので2.35m、1.0~1.5mの深さを有するものが多い。墓壙の時期であるが副葬されていた銭貨をみると明治十年鑄造の一銭が出土しているSK 4 8が最も新しい墓壙である。ここからは幕末の文久永寶や天保通寶も共に埋葬されていた。所謂新寛永のみが出土した墓壙としてはSK 2 8・4 3・7 8がある。新寛永と判読不明銭が出土した墓壙にはSK 2 4・3 0・3 4・4 7・4 9・5 1・5 7・6 3が、新寛永と古寛永と判読不明銭とで構成される墓壙にはSK 1 0・1 1・1 2・2 2・2 9・3 3・3 6・5 0・5 6・6 0・6 2・7 1・7 2・7 3・7 4・7 7がある。古寛永のみが出土している墓壙はSK 1 8・2 5の2基のみであった。判読できない銭のみが出土した墓壙はSK 2 7・4 4・5 9である。これらのことから、この地が墓地として利用され始めたのは17世紀中葉頃からと考えられ、江戸時代後半の墓壙が最も多くみられる。そして幕末から明治前半頃までの墓壙を確認することができた。これら墓壙群の中で鉄鍋を被せて埋葬しているものがSK 2 2・2 9・4 7である。鏡や簪、紅皿など被葬者の性別を想定できるものもある。これより新しい段階の墓壙は改葬により把握できなかった。

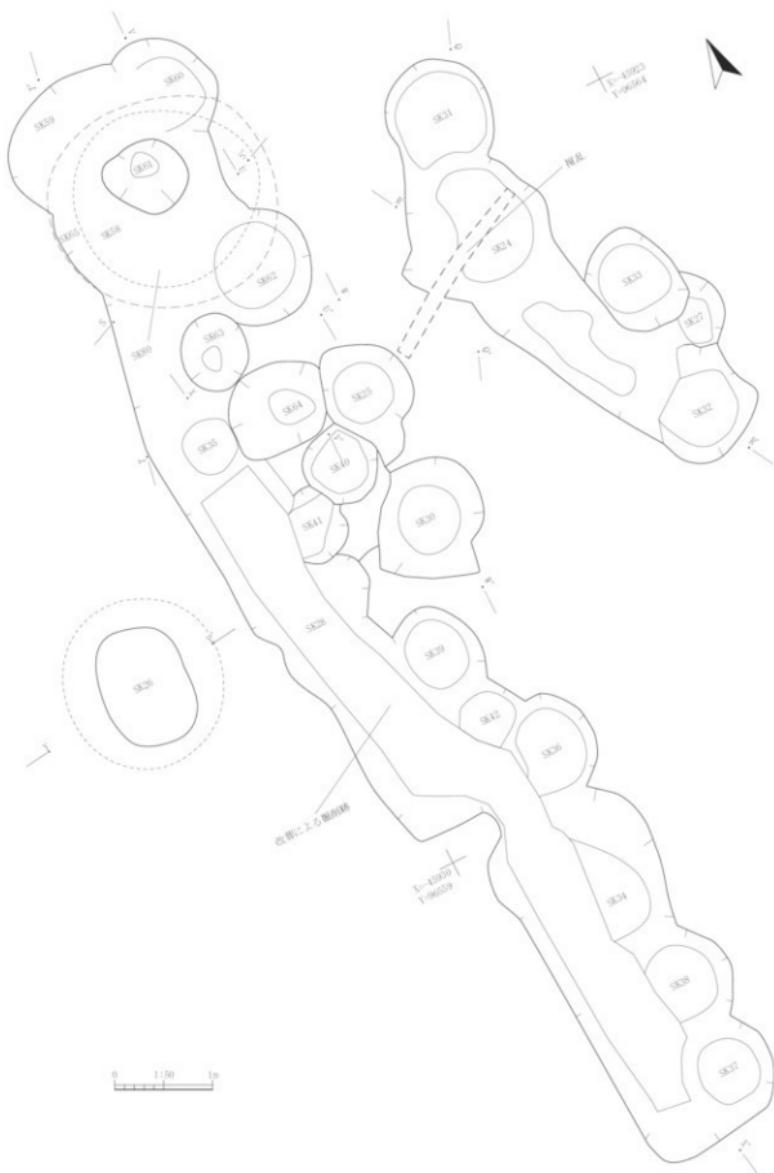
個々の土坑・陥し穴の特徴、墓壙の埋葬状況や出土遺物などについては観察表に整理している。

(4) 柱 穴(第20図)

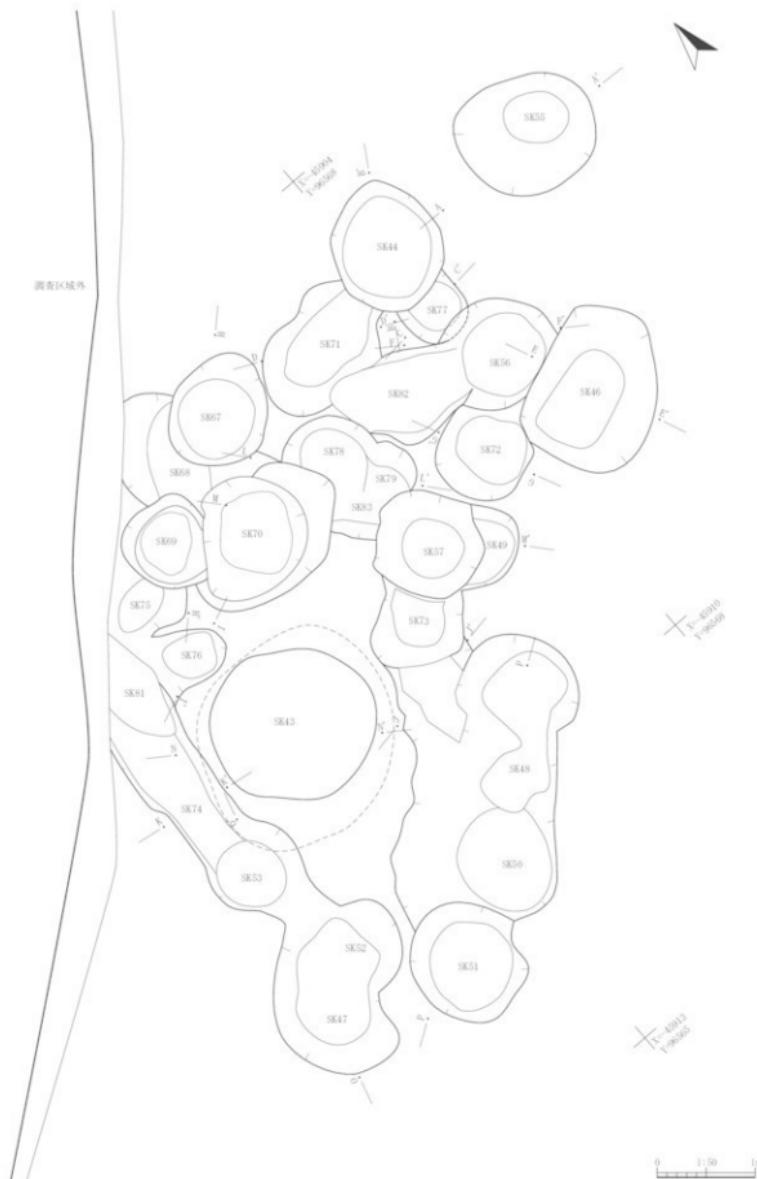
合計18個の柱穴を検出した。堅穴住居跡に伴うものとそれ以外の単独で見つかるものとがあるが、規模については観察表にまとめた。



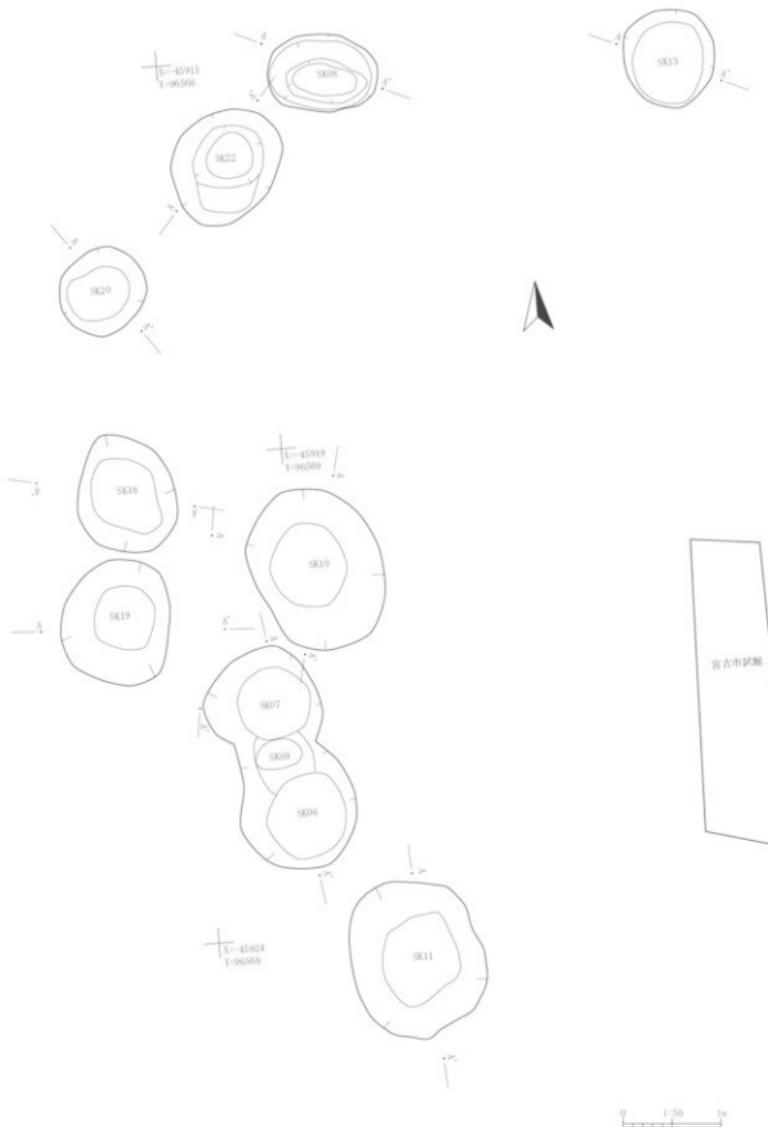
第13図 炭窯、土坑・墓塚 1



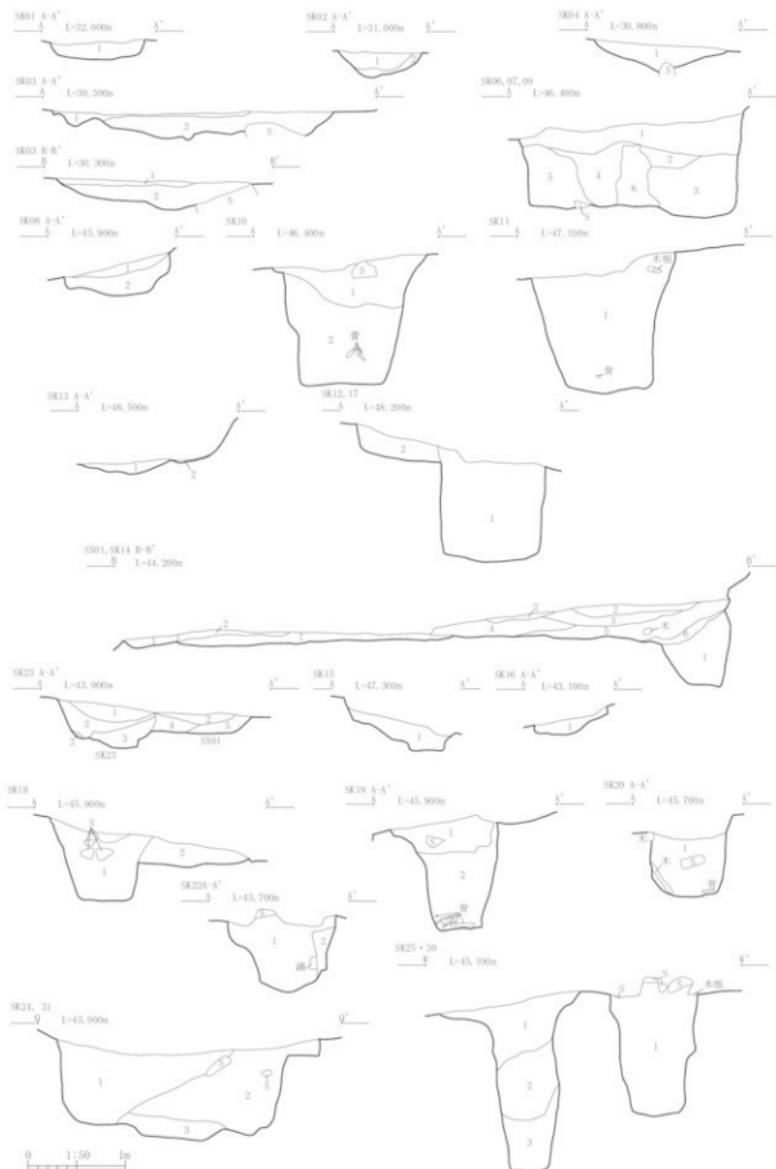
第14図 土坑・墓塚2



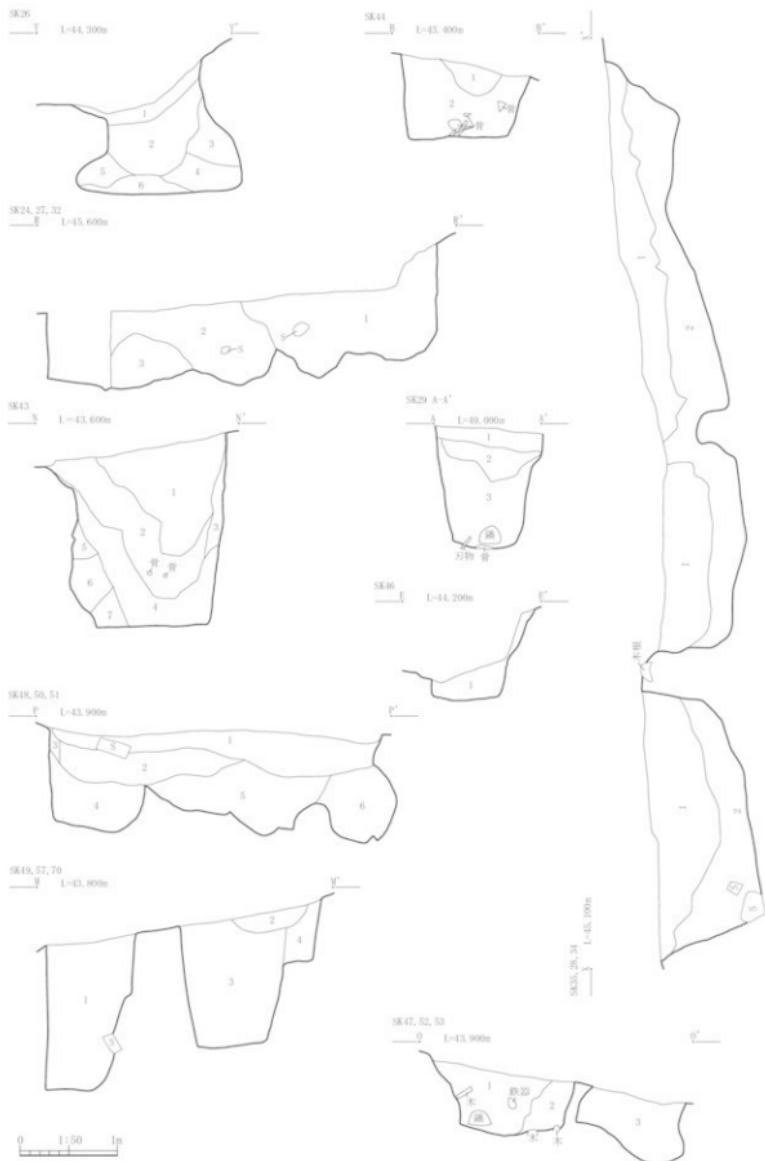
第15図 土坑・墓塚 3



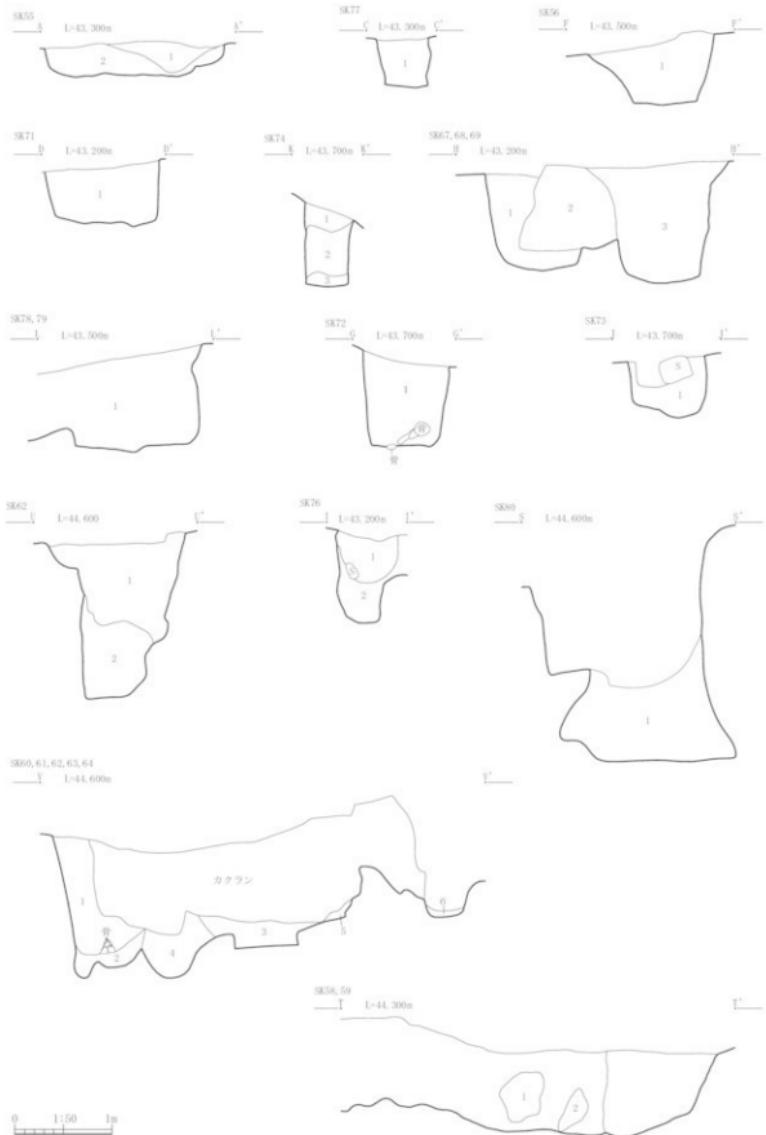
第16図 土坑・墓壙 4



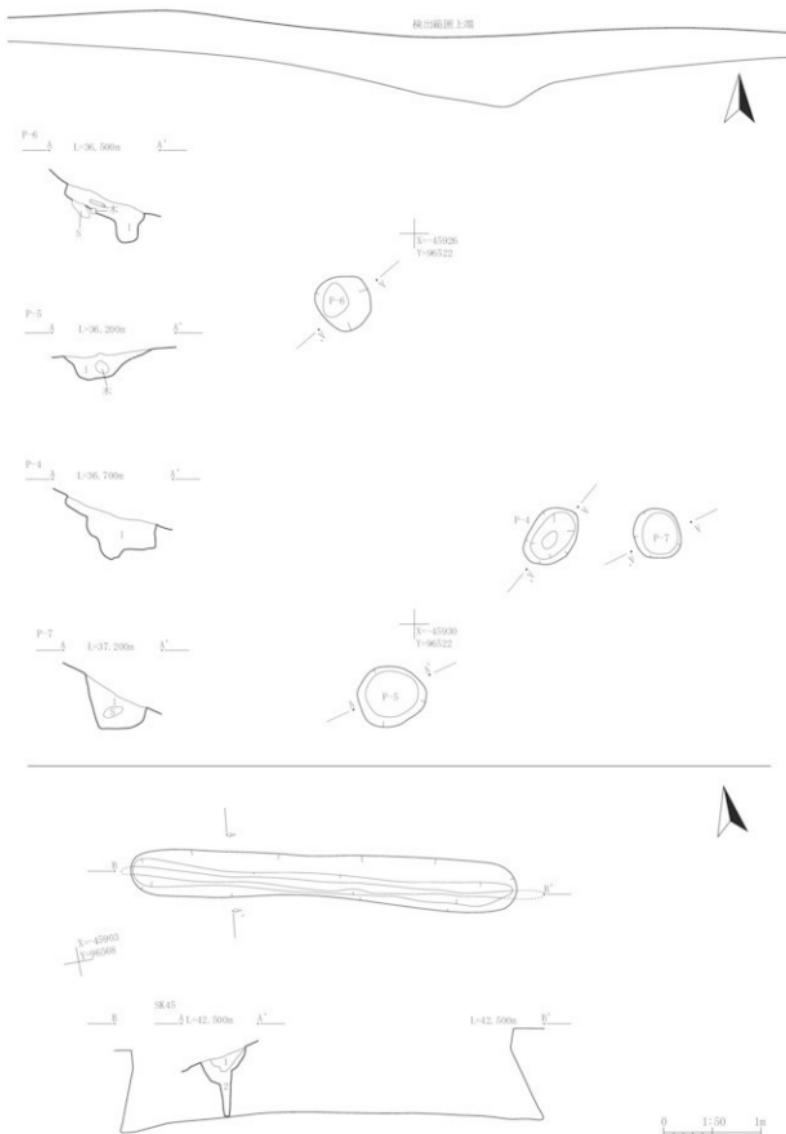
第17図 土坑・墓塙 5



第18図 土坑・墓壙6



第19図 土坑・墓壙 7



第20図 柱穴、縮し穴

4 出 土 遺 物

(1) 繩 文 土 器(第21図、写真図版24)

多くはS102から出土したもので縄文時代中期後半のものである。2は口縁部が大少の波状となり、縦長の長円形を基調とした沈線による文様が連続する。3は口縁部に溝文が横位に付く。8・9も同一個体である。2本の粘土紐を1単位として円弧文を成している。同様の文様構成となるものに10・11・12がある。13は屋外に埋設されていた可能性があるが、水道管敷設により擾乱を受けていた。6はミニチュア土器の底部である。個々の特徴については観察表に整理している。

(2) 石 器(第24図、写真図版24)

石器類は6点出土し、5点を掲載した。計測値や石質等は観察表に記載している。何れも縄文時代の石器である。81は石棒の未完成品であろうか。

(3) 土 師 器(第25図、写真図版24)

S101から381g出土した中から3点掲載した。非クロロで成形された甕である。短くてあまり外反しない口縁部、胴部は縦方向にヘラナデ、内面は横方向にヘラナデを施している。

(4) 陶 磁 器(第22~24図、写真図版25)

13点を掲載した。11点は墓壙に副葬されていたもの。2点は遺構外出土であるが、墓に備えられていた可能性が高い。

22の陶器甕と23の片口鉢・32の陶器碗は19世紀代の東北在地窯の製品と考えているが産地までは不明である。34の陶器碗は瀬戸戸美濃産の腰錆碗、染付碗や小瓶は肥前産であろう。49は肥前系の染付碗かもしだれない。破片の資料については墓内で割れたのではなく、埋葬時に破片を入れたものである。

(5) 銭 貨(第25~37図、写真図版28~52)

墓壙を中心に約500枚の銭貨が出土している(遺構外出土は2枚)。その中には複数の銭が互いに密着しているものや腐食が進み、細かく破碎している個体も多かつたため全体数は数えられなかった。互いに密着しているものを1枚1枚剥がして掲載したかったが、残りの悪いものは破碎してしまうため、今回は剥がさずに掲載しているものも多い。銭名が読めない個体等は不掲載とした。

出土した銭の殆どが寛永通寶であった。整理期間が限られていたため寛永通寶は所謂「古寛永・新寛永」に大別しただけで、細分はしなかった。新寛永のほうは圧倒的に多く、背文を持つものもその中で半数はあった。銭銘が摩耗や腐食して読めない個体もかなりの数にのぼる。多くは寛永通寶とみられるが、中には鎌銭が含まれている可能性も高い。

江戸時代後半に鋳造された「天保通寶」「文久永寶」も出土しているが、「一銭」「二銭」硬貨と共に出土している。既に貨幣価値の無くなった段階で埋葬されたのもといえるだろう。

中世の渡来銭も2枚程確認された。個々の銭貨の特徴については観察表に記載している。

(6) 銅 製 品(第22~24図、写真図版25)

何れも墓壙から出土したもので図化できるものは全て掲載している。銭貨を除く銅製品の中では煙

管が最も多く、次いで簪となる。

煙管は雁首部分と吸口部分とを合わせて15点出土した。15は袋に入れられて副葬されていたようで雁首部分に布が付着している。布が付着しているものは他に57がある。SK11から出土した煙管は火皿のつけ根から羅字と接合する部分までが他よりも長い。68は他の煙管よりも径が太い。羅字は殆ど残っていないが、材質は一般的な竹のようである。

簪は5点出土している。何れも耳かきだけの細長い簪とみられる。但し耳かきは既に実用的なものではなくっているようだ。51・63は残りが良く長さは19cm弱ある。51には布が付着していた。

柄鏡は1点のみ出土した。裏面には竹が描かれている。文字は判読できなかった。

その他の銅製品としてはSK33からは毛抜きが1点出土した。31は簾筈などの引手金具である。30も同じ簾筈などの金具の一部だったとみられる。40・71～74は何かの装飾品であったようだが詳細は不明である。

(7) 鉄 製 品(第23・24図、写真図版26)

何れも墓壙に副葬されていたものである。鉄製品の中で最も多いものは鉄釘で棺に使われたものであろう。但し今回は写真掲載にして図化はしていない。次いで多いのは刀物である。他に鉄鍋、金具等が出土した。

刃物類としては刀子が9点出土している。最も刀の長いもので13.0cm、短いもので7.0cmのものがある。柄の木質部分が若干残っているものも複数ある。29や61は包まれていた布が一部残っていた。

鎌は1点のみの出土であった。柄と刃は直角ではなくやや開いている。歓は弧状となならず直線である。

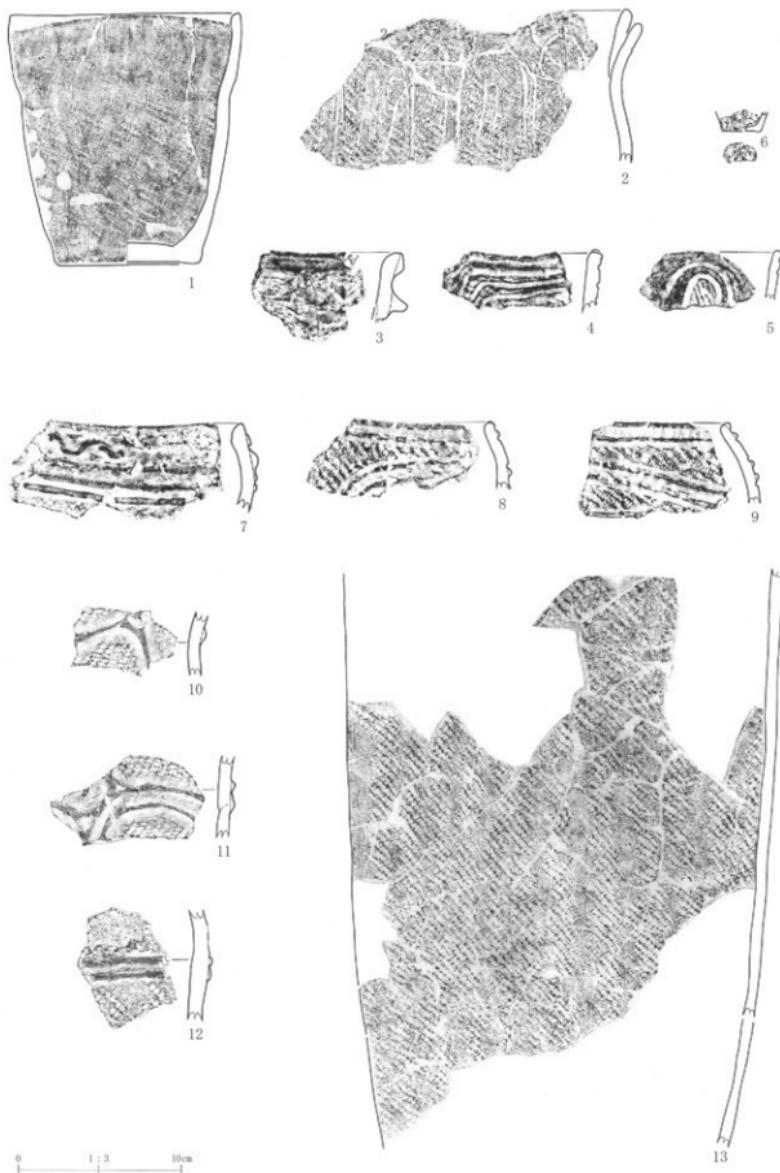
鉄鍋は3点出土した。何れも遺体頭部に被せられていたとみられ、底を上にした状態で出土している。内耳鉄鍋ではない。容量は皆近く、脚は3本である。50には吊手部分も残っていた。

48は引出金具、21・28・47は木箱或いは簾筈の鍵部分のようである。53・54は鉤、52は用途不明の製品である。

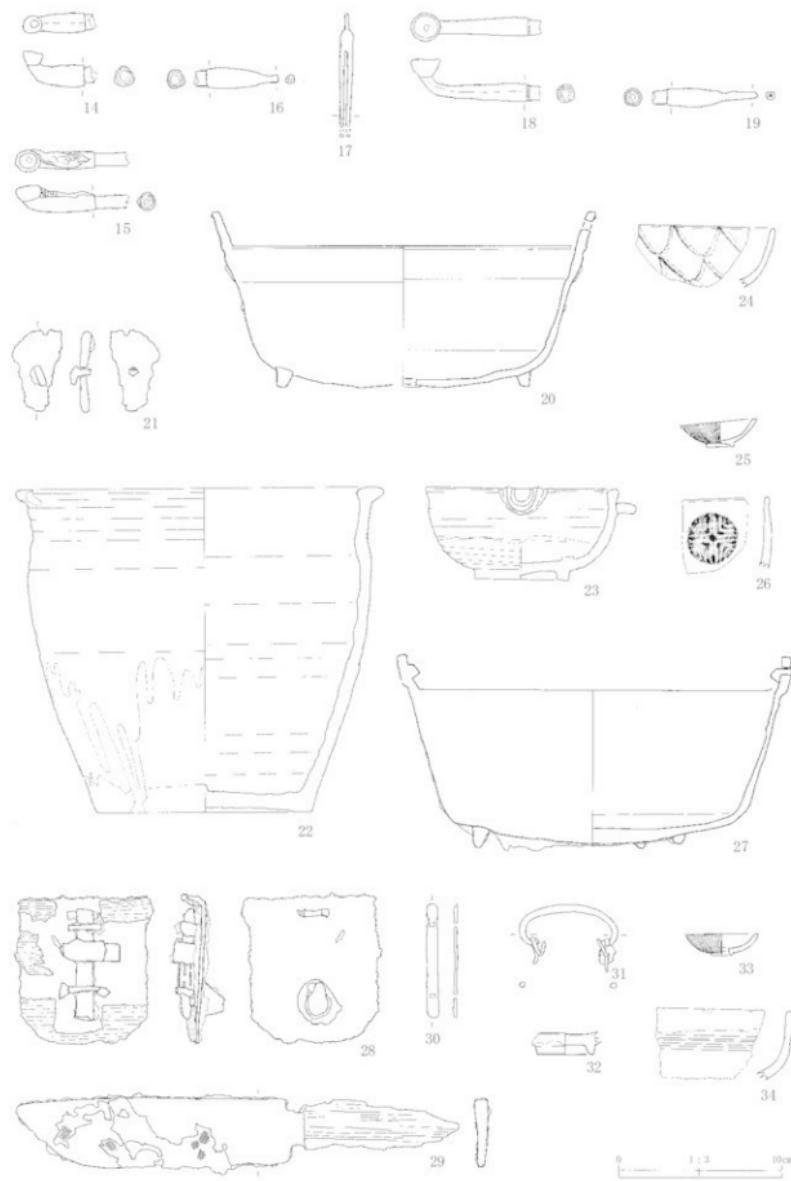
(8) 羽口・鉄滓(第25図、写真図版26)

羽口(85)は1号小鋸冶炉のすぐ東側にあった。底に鉄滓が付着した状態となっている。520は鉄滓でS102中央付近にあるP5から出土した。

遺構名	層位	注記	遺構名	層位	注記
SK43 N-N'	1	10YR2/2黑褐色土 明黄褐色土を少量含む 粘性弱、繊りや有	SK47, SK52, SK53 0'-0'	1	10YR3-3暗褐色土 土塊多い、硬直くに明黄褐色土少 量あり、粘性・繊り弱
	2	10YR4-4に似 黄褐色土 粘性やや有、繊つている		2	10YR6-6暗褐色土 暗褐色土、褐色土を多量に含む 粘性やや有、繊り弱
	3	10YR5-4に似 黄褐色土 粘性やや有、繊つている		3	10YR2-3暗褐色土 粘性・繊り弱 改修後の埋没し
	4	10YR6-6明黄褐色土上 細褐色土少量混じる 粘性やや 有、繊つている		4	10YR3-4褐色土 ピール、硬いた鐵板片などを含む 改修の土、粘性やや有、繊り有
	5	10YR6-6明黄褐色土 粘性・繊りやや有		5	10YR6-6明黄褐色土 暗褐色土少量混じる 粘性・繊り やや有
	6	10YR4-6褐色土 粘性・繊りやや有		6	10YR4-6褐色土 地山ブロック少量含む 粘性・繊り やや有
	7	10YR6-6明黄褐色土 細褐色土少量混じる 粘性・繊りや 有 (人為)			
SK44 B-B'	1	10YR6-6明黄褐色土 粘性・繊りやや有	SK48, SK50, SK51 P-P'	1	10YR2-3暗褐色土 粘性やや有、繊り弱
	2	10YR6-6明黄褐色土 細褐色土少量混じる 粘性・繊り やや有 (人為)		2	10YR6-6明黄褐色土 暗褐色土少量混じる 粘性・繊り やや有
SK45 A-A'	1	10YR2/2黑褐色土 黃褐色土微量含む 粘性・繊りやや 有		3	10YR4-3に似 黄褐色土 粘性やや有、繊り弱
	2	10YR2/2黑褐色土 黄褐色土と黄褐色土を少量含む 粘 性・繊りやや有		4	10YR4-6褐色土 地山ブロック少量含む 粘性・繊り やや有
SK46 E-E'	1	10YR2/2黑褐色土 地山ブロック不規則に多量に含む 粘性・繊りやや有 (人為) (墨ではないようだ) 古く もないようだ		5	10YR2-3暗褐色土 地山ブロックを大量に含む 粘性・ 繊りやや有
				6	10YR6-6明黄褐色土 暗褐色土少量含む 粘性・繊り やや有



第21図 出土遺物 1



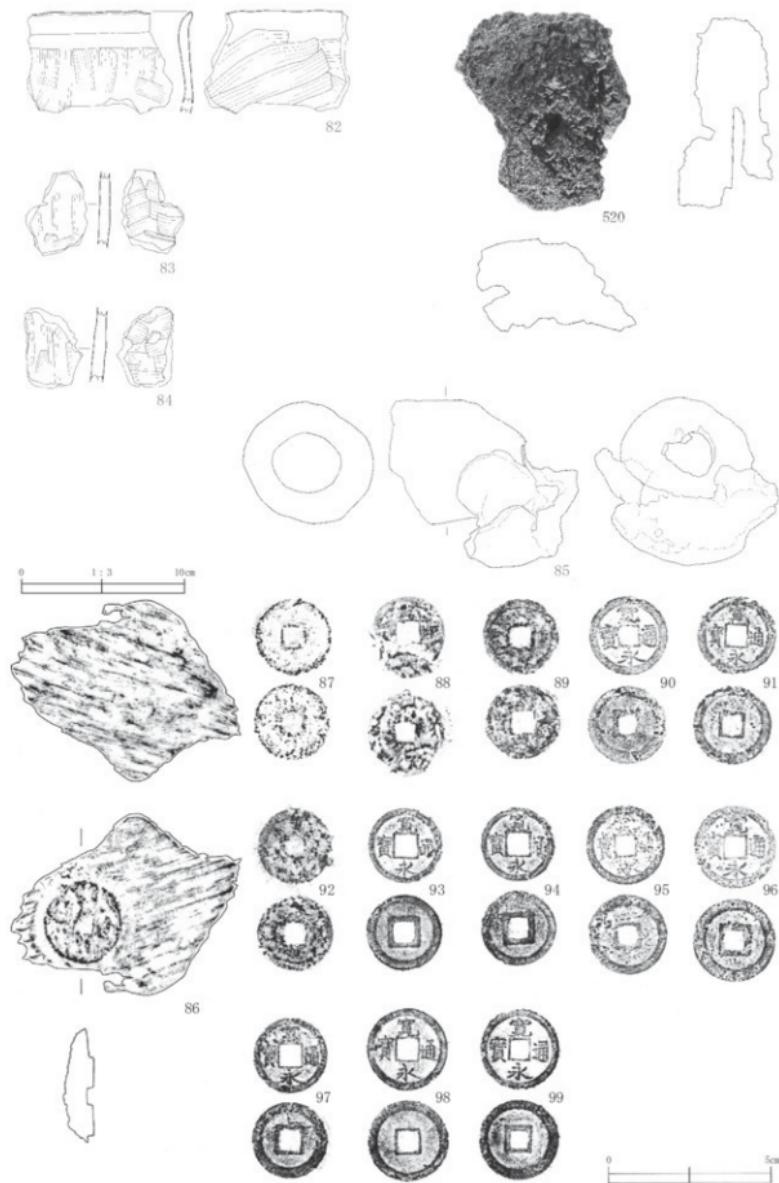
第22図 出土遺物2



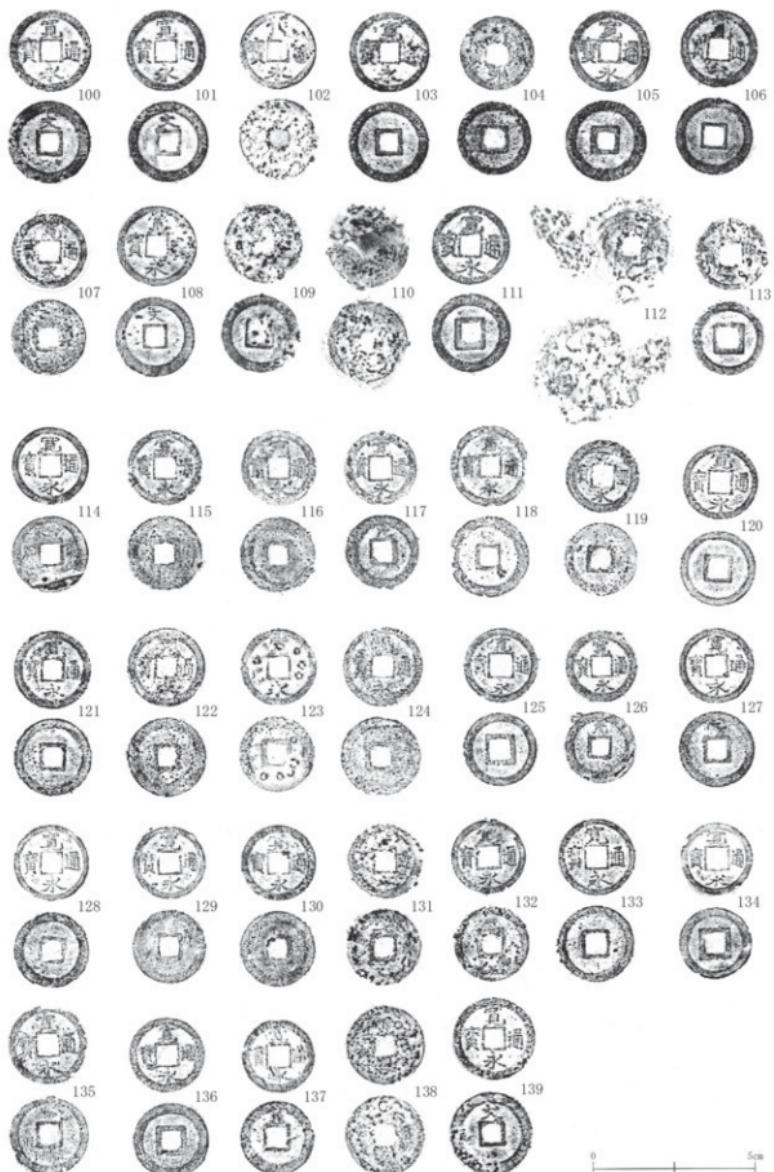
第23図 出土遺物3



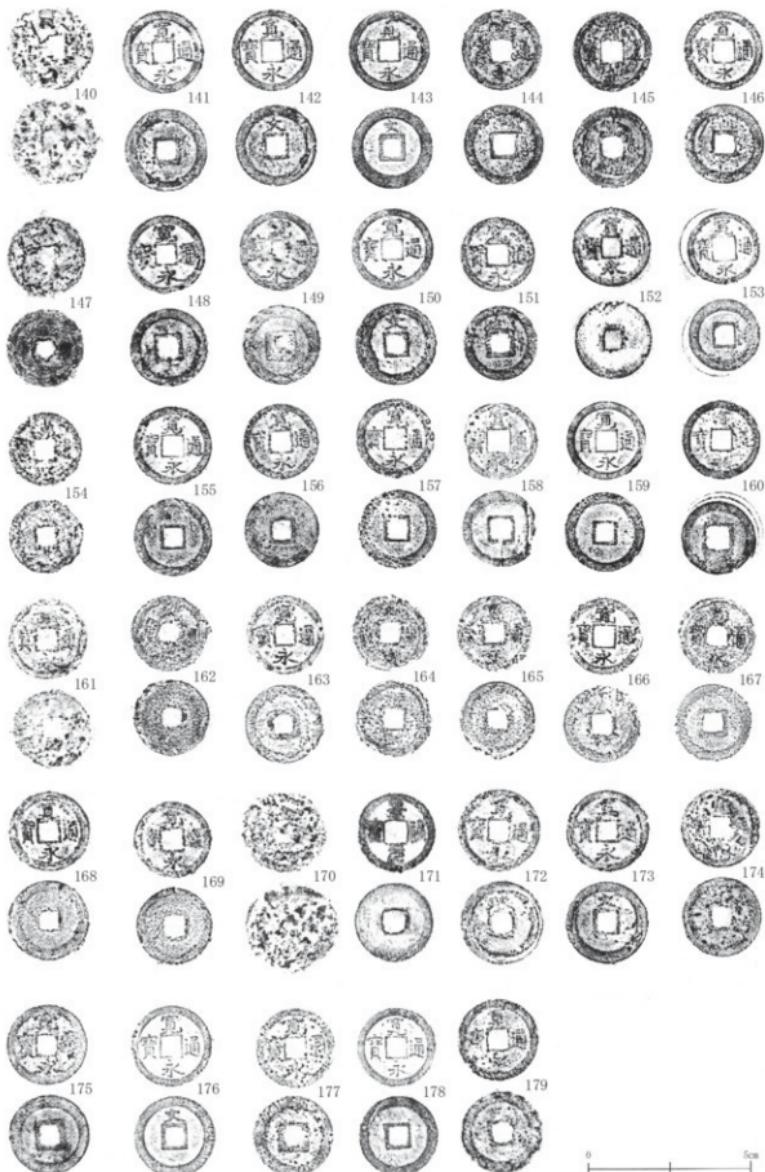
第24図 出土遺物4



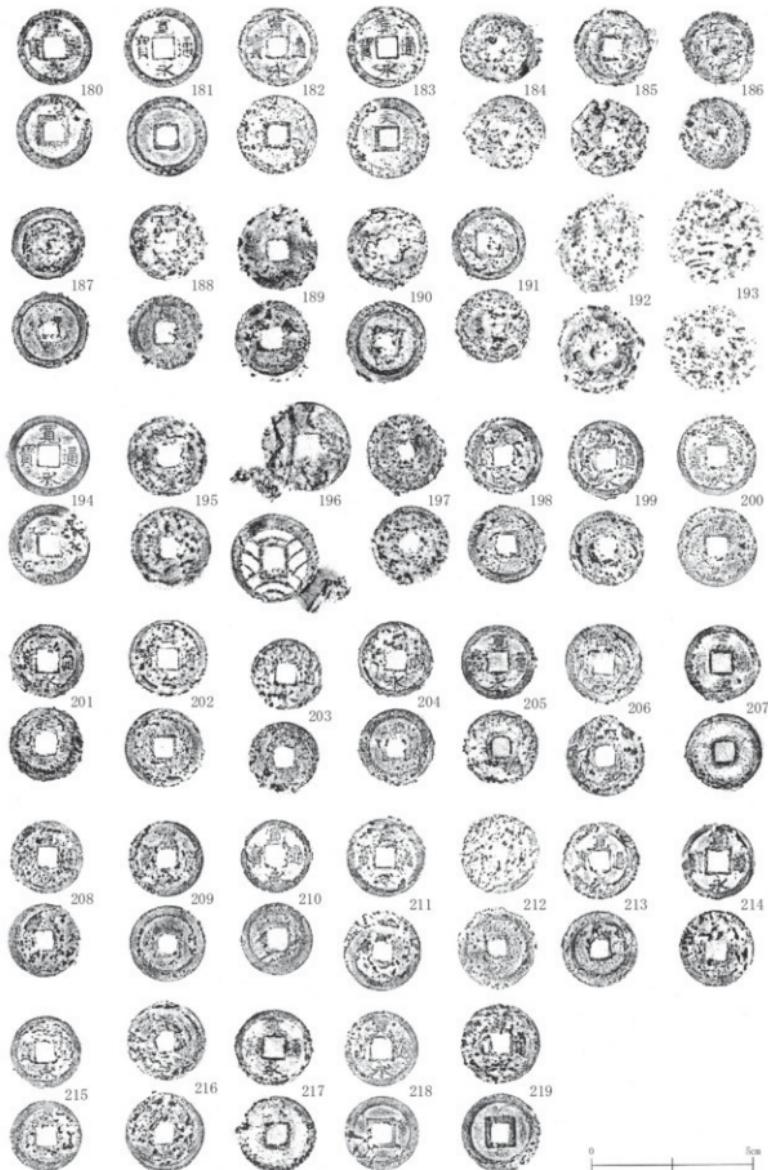
第25図 出土遺物 5



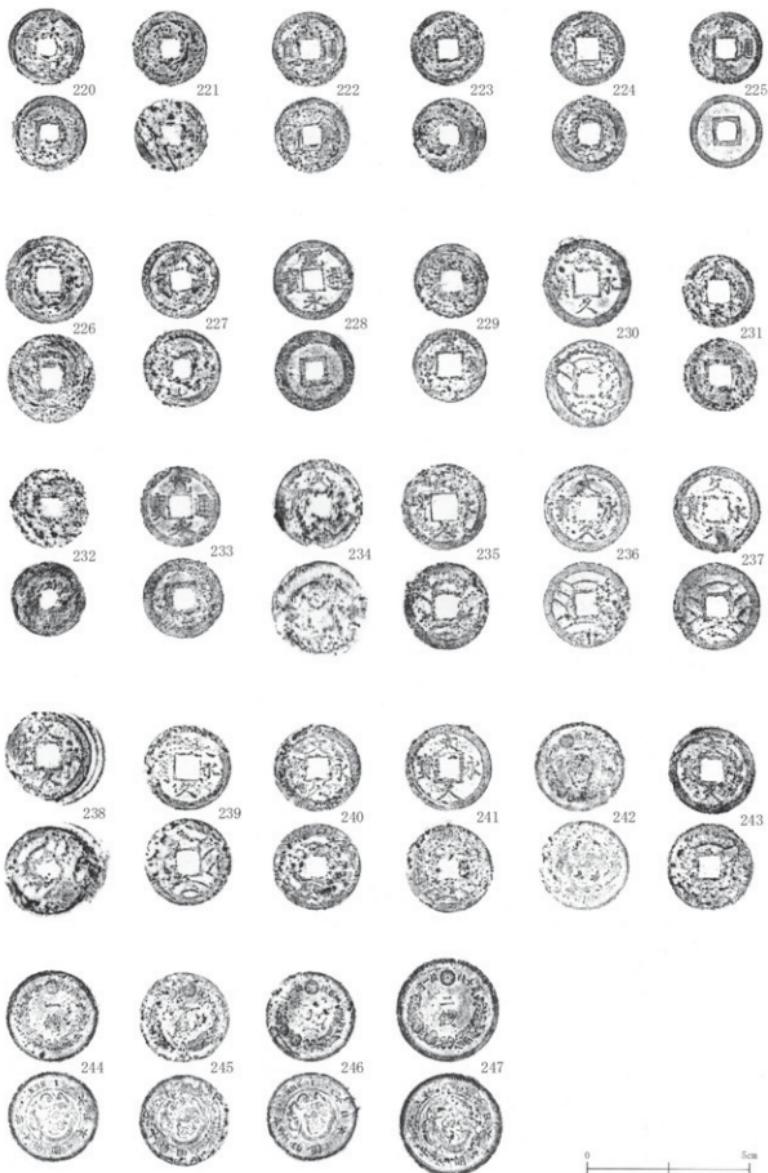
第26図 出土遺物 6



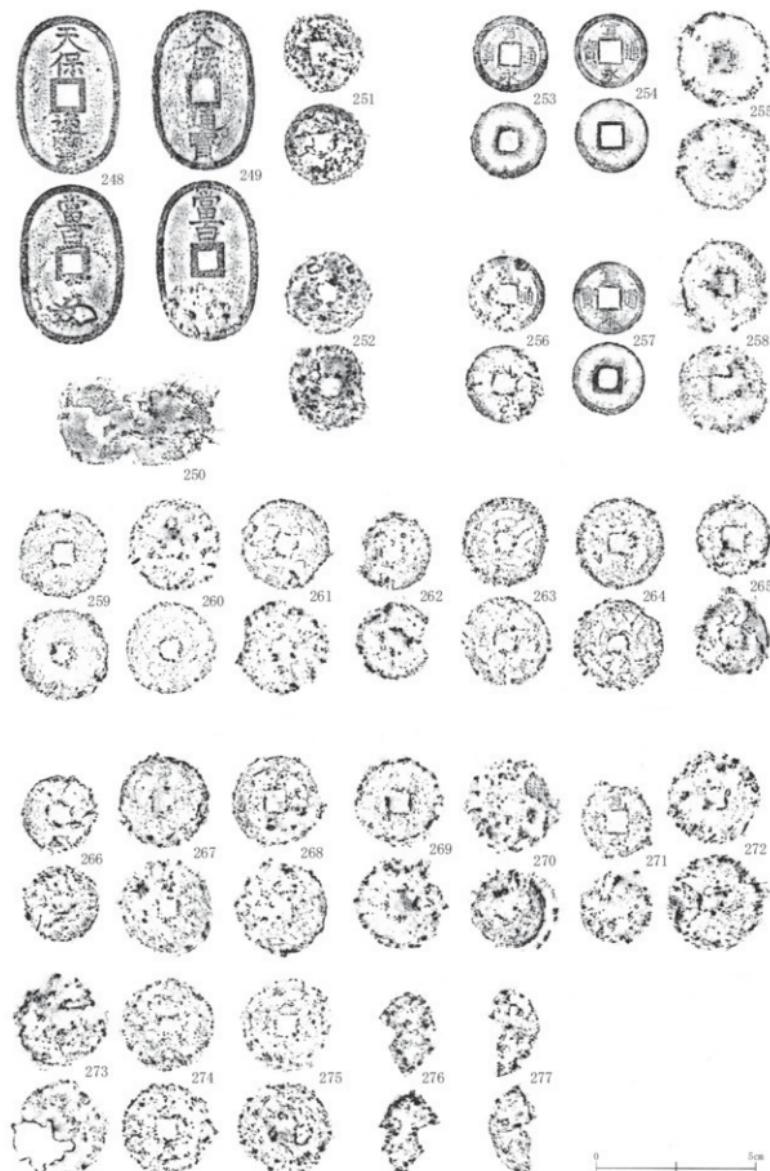
第27図 出土遺物7



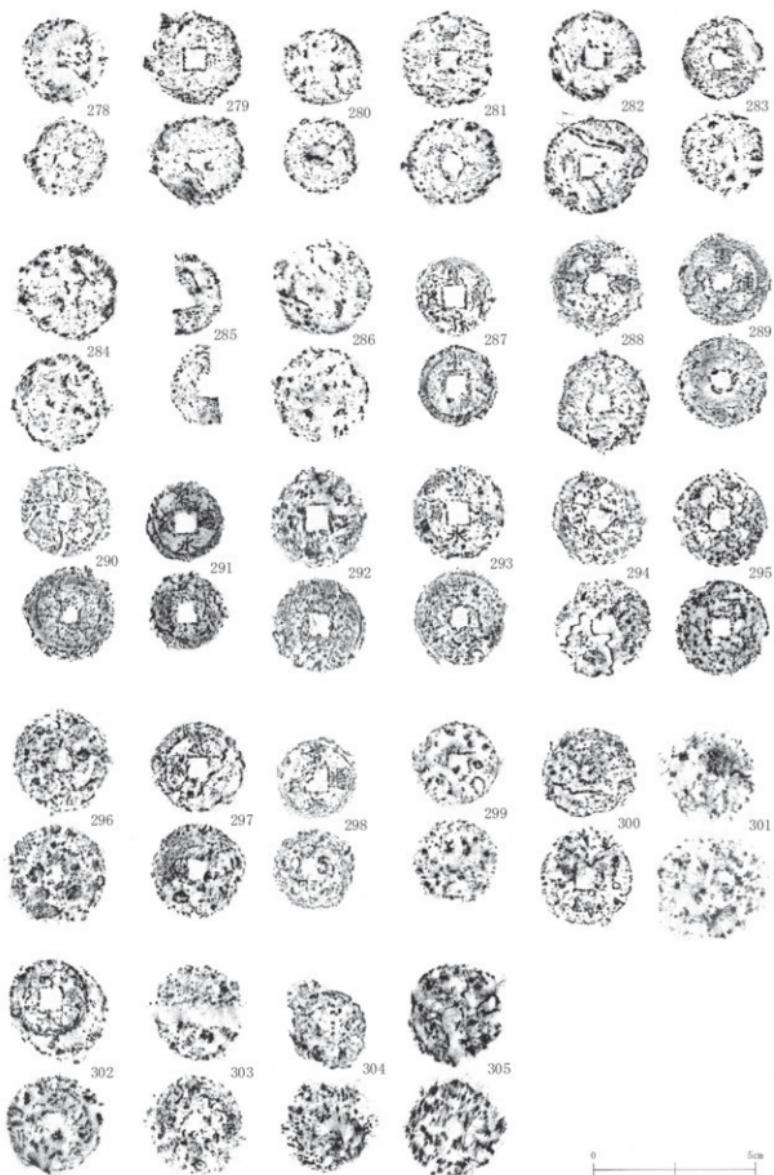
第28図 出土遺物8



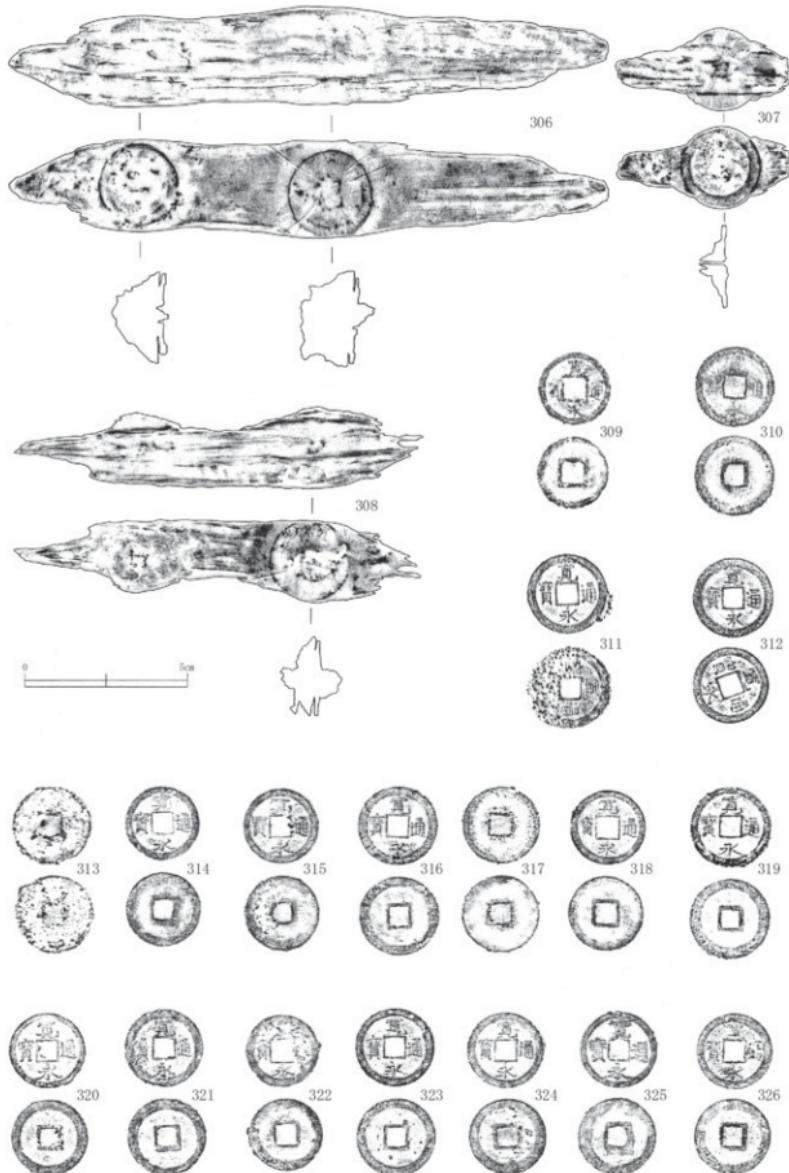
第29図 出土遺物9



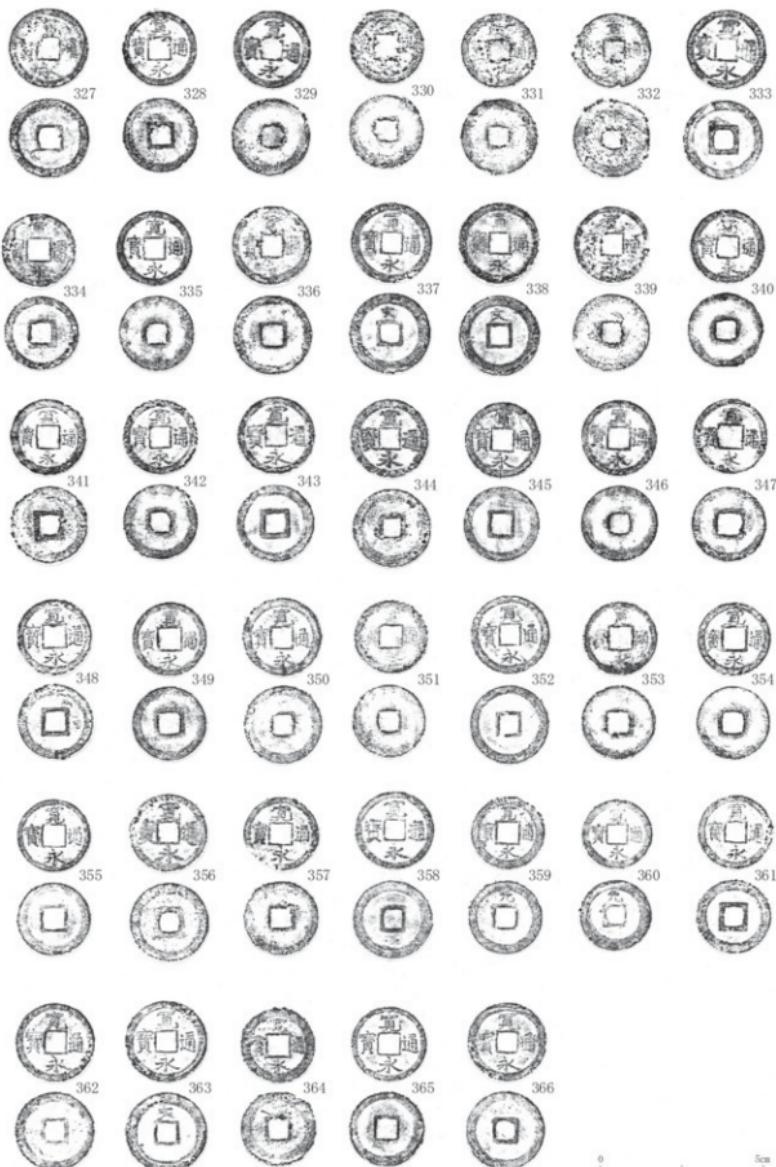
第30図 出土遺物10



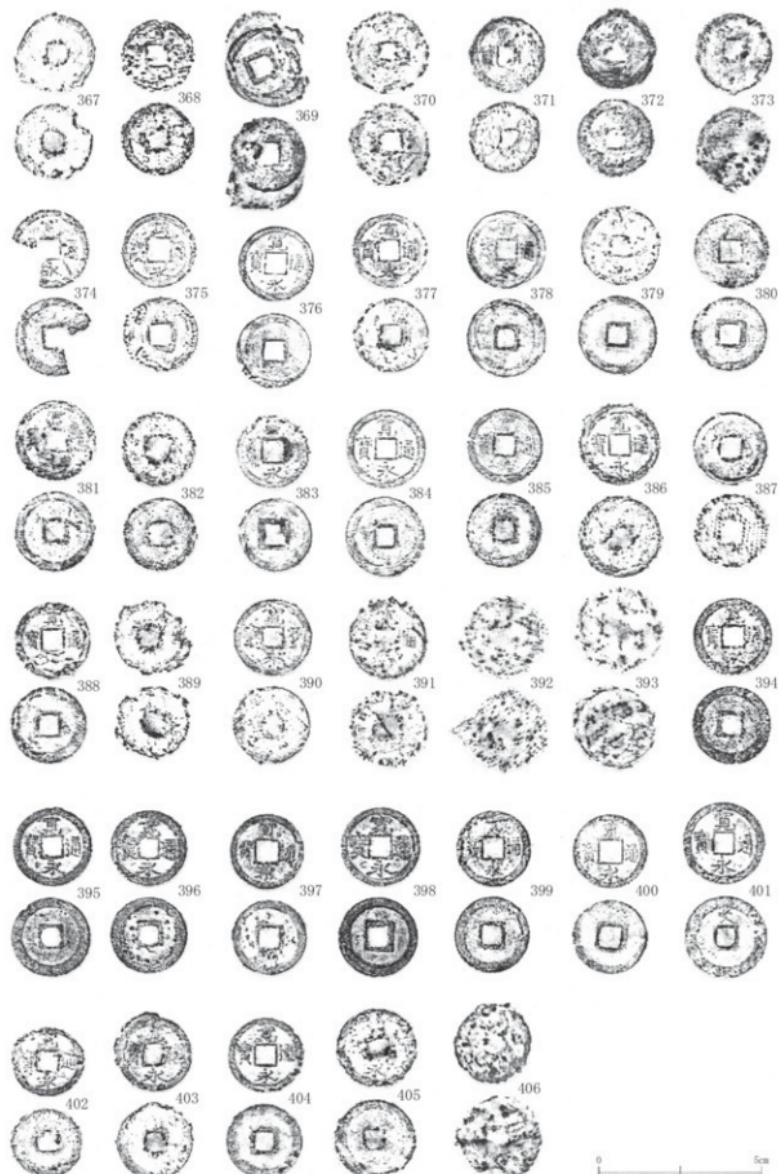
第31図 出土遺物11



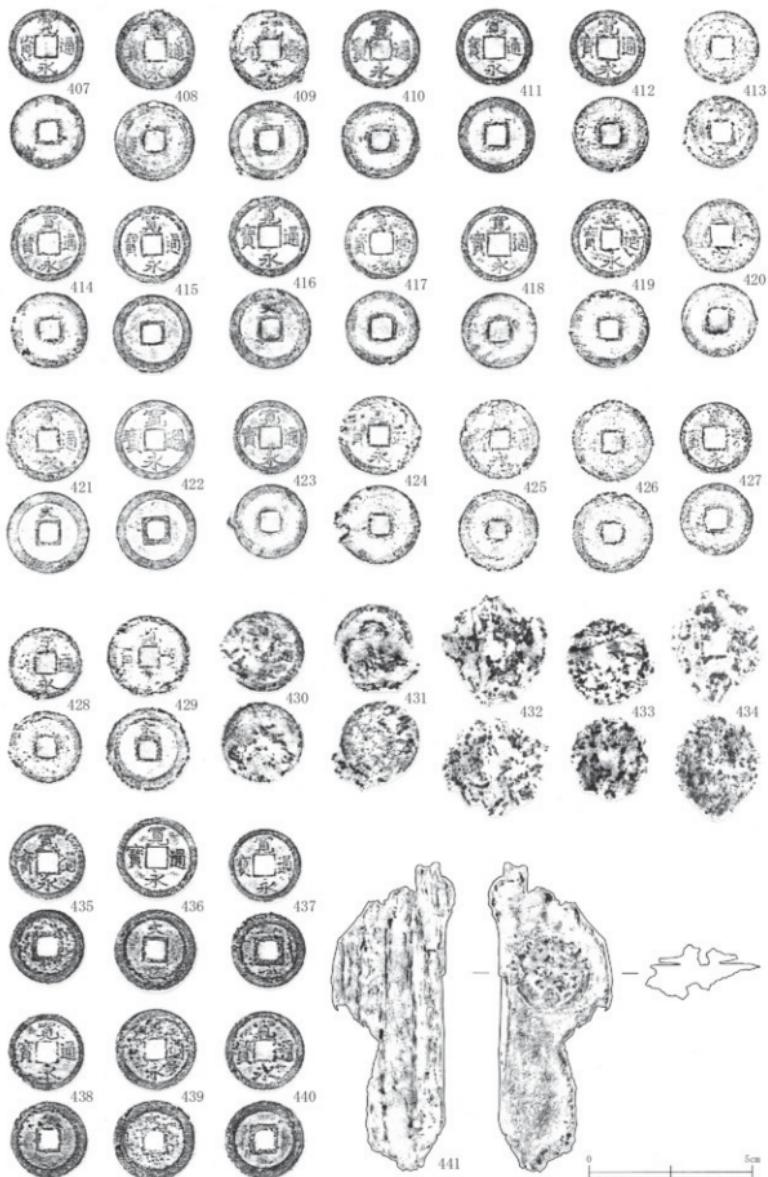
第32図 出土遺物12



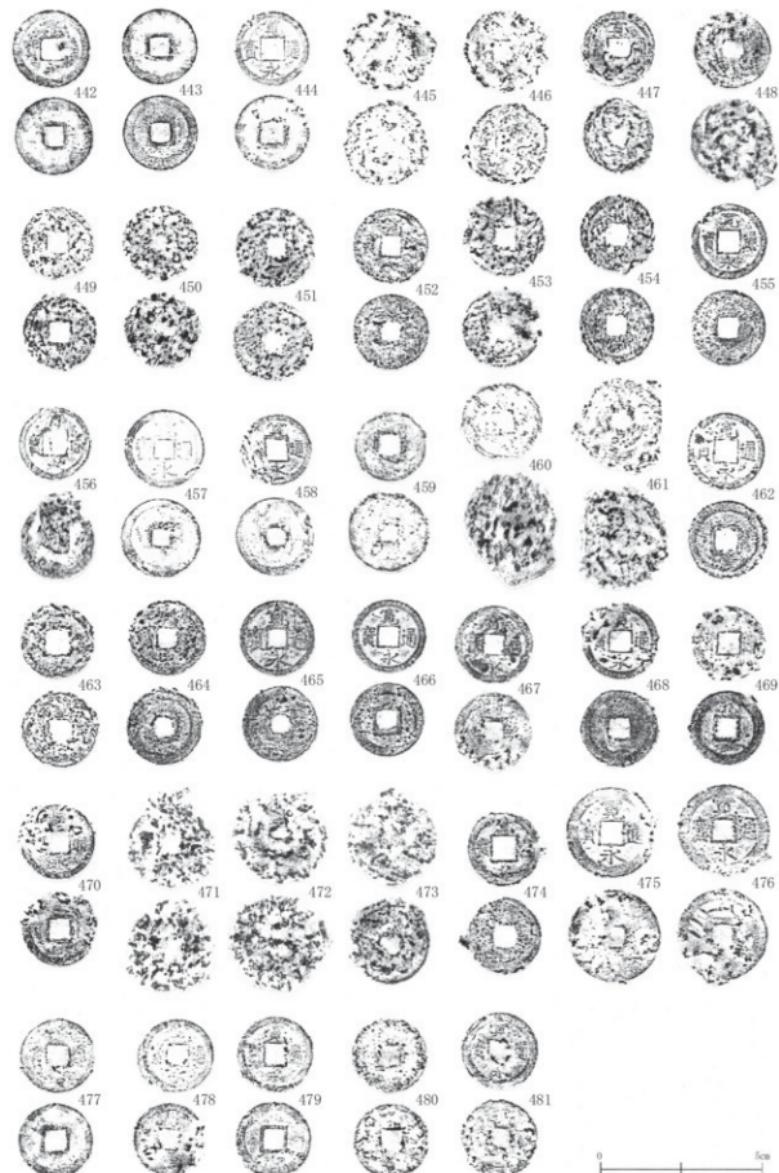
第33図 出土遺物13



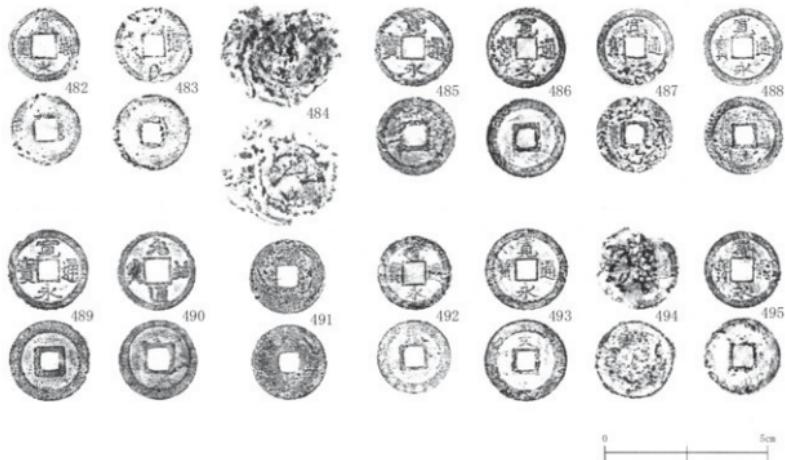
第34図 出土遺物14



第35図 出土遺物15



第36図 出土遺物16



第37図 出土遺物17

遺構名	層位	注記	遺構名	層位	注記
SK49, SK57, SK70 M~M'	1	10183/4に5に 黄褐色土 地山ブロック少粒を多量に含む。粘性・縮りやや有。	SK71 D~D'	1	10184/4 黄褐色土 地山ブロック少粒含む 粘性・縮りやや有。人骨の跡も見られた。
	2	10183/8明黄褐色土 地山ブロック中粒を少量含む 粘性・縮りやや有。黒斑出土。	SK72 G~G'	1	10185/3C~E 5に 黄褐色土 地山ブロック小粒を多量に含む。粘性・縮りやや有。
	3	10183/6明黄褐色土 上に5に 黄褐色土少量含む 粘性・縮りやや有。	SK73 J~J'	1	10184/6 黄褐色土 縮りやや有。
	4	10183/6 黄褐色土 上に5に 黄褐色土を少量含む 粘性・縮りやや有。	2	10183/2 黑褐色土 地山ブロック少量含む 粘性・縮りやや有。黒斑で、黒い塊状。	
SK55 A~A'	1	10182/2 黑褐色土 地山ブロックを多量に含む 粘性・縮りやや有。	3	10183/4 黄褐色土 上に5に 黄褐色土を少量含む 粘性・縮りやや有。	
	2	10183/6 黄褐色土 粘性やや有。縮りで、黒斑。	SK76 I~I'	1	10183/3 黄褐色土上に 10183/4 黄褐色土の混合土 (1:1) 縮り中。粘性中。
SK56 F~F'	1	10183/8明黄褐色土 地山土・褐色土ブロックを不規則に混在。粘性やや有。縮りやや有。	2	10184/3C~E 5に 黄褐色土 地山ブロック中粒を多量に含む 粘性・縮りやや有。	
	2	10182/4 黄褐色土 地山ブロック少量を多量に含む 粘性・縮りやや有。	SK77 C~C'	1	10186/4 黄褐色土 上に5に 黄褐色土少量含む 粘性・縮りやや有。SK56, SK44と重なる。SK77が古いようだ。
SK60, SK61, SK62, SK63, SK64 V~V'	1	10184/3C~E 5に 黄褐色土 中～下位には地山ブロックを少量含む 粘性・縮りやや有。	SK78, SK79 I~I'	1	10184/4 黄褐色土 地山ブロック多量含む 粘性・縮り弱。
	2	10185/6 黄褐色土から上に5に 黄褐色土 粘性・縮りやや有。		2	10184/4 黄褐色土及び 黄褐色土。に5に 黄褐色土が交互に堆積(流れ込んだように) 粘性・縮りやや有。隕石、フラスコ、遺物なし。
	3	10184/4 黄褐色土 地山ブロック多量に含む 粘性・縮りやや有。	P4 A~A'	1	10183/3 黄褐色土 粘性・縮りやや有 (柱穴)
	4	10184/3C~E 5に 黄褐色土 地山ブロック多量に含む 粘性・縮りやや有。	P5 A~A'	1	10184/3C~E 5に 黄褐色土 粘性・縮りやや有 (柱穴)
	5	10184/4 黄褐色土 粘性・縮りやや有。	P6 A~A'	1	10184/4C~E 5に 黄褐色土 粘性・縮りやや有 (柱穴)
	6	10186/6明黄褐色土 褐色土ブロックを少量含む 粘性・縮りやや有。	P7 A~A'	1	10184/2 黄褐色土 粘性・縮りやや有 (柱穴)
SK62 U~U'	1	10182/4 黄褐色土 10186/8明黄褐色土ブロックを40%含む。縮りやや有。	II	10182/3 黄褐色土 粘性・縮りやや有。縮り弱。	
	2	10184/6 黄褐色土 10186/8明黄褐色土をキヤ板に10%含む 粘性弱。	IIIa	10185/6 黄褐色土 粘性やや有。縮りで、黒斑。	
SK67, SK68, SK69 H~H'	1	10184/2C~E 5に 黄褐色土 粘性中。縮り弱。	IVb	10186/6明黄褐色土 粘性やや有。縮りで、黒斑。	
	2	10184/4 黄褐色土 粘性中、縮り弱 黑色土をモヤ状に含む。			
	3	10184/4 黄褐色土 粘性中、縮り弱 黑色土をモヤ状に含む。			

第2表 土坑・墓塙類観察表

計測値の単位: cm

遺構名	位置	規模 長軸、 短軸、深さ	形状	埋土	出土遺物	時期	その他
SKO 1	南	98/78/21	長円形	地山ブロックを多量に含む人為堆積		古代より新し いか。	
SKO 2	南	90/68/29	長円形	人為堆積 地山ブロックと黒褐色土と暗褐色土		縄文時代か	
SKO 3	南	312/284/32	不整円形	自然堆積 黒色土	磨石1点	縄文時代か	
SKO 4	南	142/108/29	長円形	黒・褐色土からなる自然堆積		不明	
SKO 5	欠番						
SKO 6	北	127/115/108	円形	人為堆積	煙管雁首2・吸口1点、鉄釘1点	近世	墓塙
SKO 7	北	112/108/82	円形	人為堆積 底面近くに繩がまとまってあり、その下から人骨片	板片に付着した状態の錢が約6枚、簪2片、鉄釘5点	近世	墓塙
SKO 8	北			人為堆積 炭粒含む		近世	墓塙
SKO 9	北	85/-/82	不明	人為堆積	鉄釘1点(残存状態悪い)	近世	墓塙
SK1 0	北	168/128/135	長円形	人為堆積 檜出面に繩2個を置く 底面中央に潰れた状態で人骨片	錢貨6枚、鉄釘2点	近世	墓塙
SK1 1	北	158/137/152	不整方形	人為堆積 檜出面に複数錢	錢貨2点、煙管雁首1・吸口1点、鉄片1点	近世	墓塙
SK1 2	北	132/120/120	円形	人為堆積	錢貨5点	近世	墓塙
SK1 3	北	103/100/13	円形	人為堆積		近世	土坑か
SK1 4	北	108/68/40	円形	人為堆積 炭窯跡より新しい		近世	墓塙
SK1 5	北	114/88/52	長円形	人為堆積		近世	土坑か
SK1 6	北	134/110/10	不整形	自然堆積		近世	墓塙
SK1 7	北	100/90/35	円形	人為堆積		近世	墓塙
SK1 8	北	130/103/87	不整形	人為堆積 檜出面に繩底面中央付近に頭骨片	錢貨約10枚(互いに密着した状態)	江戸時代前期か	墓塙
SK1 9	北	128/110/121	円形	人為堆積 埋土上位に繩底面に屈膝された人骨		近世	墓塙
SK2 0	北	94/93/64	円形	人為堆積 埋土中位に繩		近世	墓塙
SK2 1	北	SK22に変更		底面に屈膝された人骨		近世	墓塙
SK2 2	北	121/110/90	円形	人為堆積 檜出面に30×25cm程の角繩を置くやや北側から鉄錫が出土した	錢貨4枚、鉄錫1点、鉄釘2点	近世	墓塙
SK2 3	北	100/100/53	不整円形	人為堆積 炭窯跡より新しい		近世	墓塙
SK2 4	北	142/-/90	不整形	人為堆積 底面付近から陶器壺	錢貨4枚(一部には布や薄い鉄板片が付着している)、鉄釘5点、不明鉄製品1点	近世	墓塙
SK2 5	北	110/93/187	不整円形	人為堆積 頭骨の傍から陶器片口跡が完形で出土	錢貨1+互いに密着している3枚、江戸時代前期	江戸時代前期か	墓塙
SK2 6	北	129/90/147	円形	自然堆積 暗褐色土や明黄色土・黄褐色土などが交互に流れ込む		縄文時代	貯蔵穴
SK2 7	北	85/50/140	不整形	人為堆積	錢貨1枚、染付碗1点、鉄釘1点	近世	墓塙
SK2 8	北	112/79/	長円形	人為堆積	錢貨2枚、染付碗1点、紅皿1点	江戸時代後期か	墓塙
SK2 9	北	106/52/125	円形	人為堆積 檜出面に複数の角繩、鐵錫を被った状態で見つかる副葬品は木箱に入れられていた可能性がある	錢貨約22枚、陶器碗1点、刃物1点、鉄製品(筆筒の一部か)、銅製引出部1点、鐵錫1点、鐵板1片、木板1片、鉄釘約22点、骨片1	近世	墓塙
SK3 0	北	125/107/138	円形	人為堆積	錢貨3枚、陶器碗1点、紅皿1点、鉄製薄板1片、鉄釘1点	近世	墓塙
SK3 1	北	108/100/91	不整方形	人為堆積		近世	墓塙

遺構名	位置	規模 長軸、短軸、深さ	形状	埋 土	出土遺物	時期	その他
SK 3 2	北	103/82/118	不整方形	人為堆積		近世	墓壙
SK 3 3	北	110/86/130	不整方形	人為堆積	銭貨 12 枚、銅製毛抜 1 点、鉄釘 9 点、骨片 1	近世	墓壙
SK 3 4	北	80/-/85	不整形	人為堆積	銭貨約 26 枚（互いに密着）、煙管雁首 1・吸口 2 点、染付碗 1 点、鉄釘 1 点	近世	墓壙
SK 3 5	北	-/-/112	不明	人為堆積	銭貨 1 枚、黒色の布 1 枚（銭貨を包んでいた）	近世	墓壙
SK 3 6	北		円形	人為堆積	銭貨 10 枚	近世	墓壙
SK 3 7	北		円形	人為堆積		近世	墓壙
SK 3 8	北	82/-/70	円形	人為堆積		近世	墓壙
SK 3 9	北	104/87/75	円形	人為堆積		近世	墓壙
SK 4 0	北	80/72/69	不整方形	人為堆積		近世	墓壙
SK 4 1	北	78/60/88	不整形	人為堆積	鎌 1 点	近世	墓壙
SK 4 2	北	58/-/82	不明	人為堆積		近世	墓壙
SK 4 3	北	170/155/200	円形	人為堆積 非常に大きくて深い、圓文時代の貯蔵穴かと思っていたが骨や銭が出土したため墓壙と判断した	銭貨 3 枚、刀子 1 点、鉄釘 2 点	江戸時代後期か	墓壙
SK 4 4	北	120/117/85	不整方形	人為堆積 体を小さく折り曲げた状態で出土し。	銭貨約 25 枚（互いに密着した状態）、煙管雁首 1・吸口 1 点、簪 1 点	近世	墓壙
SK 4 5	北		長円形	自然堆積		圓文時代	陥穴
SK 4 6	北	165/134/97		人為堆積		近世	墓壙
SK 4 7	北	142/88/76	不整形	人為堆積 鍋を被った状態で出土。副葬品は小形の草笛のようなものに入れられていた可能性がある。	銭貨 5 枚、板（板に付着）、染付碗 1 点、鉄鍔 1 点、草笛の手引、草笛材？ 1 点	近世	墓壙
SK 4 8	北	80/80/107	不整形	人為堆積 埋土上位に角繩を置く	銭貨 54 枚、文久永寶 2 枚、近代銭貨 4 枚、銭貨約 10 枚（密着している）、簪 1 点、鉄釘 4 点	近代	墓壙
SK 4 9	北	78/48/62	不明	人為堆積	銭貨 3 枚、鉄釘約 20 枚、土人形 1 点、鈴 2 点、鉄釘約 40 点	近世	墓壙
SK 5 0	北	105/102/82	不明	人為堆積	銭貨約 70 枚（互いに密着した状態）、鉄釘約 60 点、薄鉄板 1 片	近世	墓壙
SK 5 1	北	125/117/103	不整円形	人為堆積	銭貨 6 枚	近世	墓壙
SK 5 1	北	120/88/108	不整円形	人為堆積	銭貨約 23 枚（密着している）、鉄釘 17 点	近世	墓壙
SK 5 2	北	120/88/55	不整形	人為堆積		近世	墓壙
SK 5 3	北	98/80/75	円形	人為堆積		近世	墓壙
SK 5 5	北	138/125/32	長円形	人為堆積	S K 54 と S K 55 は重複ではなく 1 つの墓壙だった	近世	墓壙
SK 5 6	北	118/108/73	不整方形	人為堆積 遺骨は身体を折り曲げた状態で検出	銭貨 6 枚、鉄釘 3 点、薄鉄板 2 片	近世	墓壙
SK 5 7	北	112/103/130	不整方形	人為堆積	銭貨 9 枚、鉄釘 6 点	近世	墓壙
SK 5 8	北	-/-/86	不明	人為堆積		近世	墓壙
SK 5 9	北	150/-/88	不明	人為堆積		近世	墓壙
SK 6 0	北	118/80/144	不整方形	人為堆積	銭貨 26 枚、鉄釘約 13 枚（密着状態）、刀子 1 点、銅鏡 1 点、染付小蓋 1 点、鉄釘約 50 点	近世	墓壙
SK 6 1	北	-/-/128	不整方形	人為堆積	銭貨 1 枚、鉄釘 2 点	近世	墓壙
SK 6 2	北	120/102/157	円形	人為堆積	銭貨 7 枚、刀子 1 点、鉄釘約 25 点	近世	墓壙
SK 6 3	北	80/71/20	円形	人為堆積	銭貨 5 点、板片 1 点	近世	墓壙

遺構名	位置	規模 長軸、短軸、深さ	形状	埋土	出土遺物	時期	その他
SK 6.4	北	102/89/40	不整方形	人為堆積		近世	墓壙
SK 6.5	北	110/93/108	不明	人為堆積		近世	墓壙
SK 6.6	北	風倒木					
SK 6.7	北	120/102/100	不整円形	人為堆積	銭貨約18枚(密着した状態)。簪1点、鉄釘8点	近世	墓壙
SK 6.8	北	102/-/89				近世	墓壙
SK 6.9	北	100/90/123	不整方形	人為堆積	銭貨12枚、刀子1点、煙管雁首1・吸口1点、鉄釘5点	近世	墓壙
SK 7.0	北	168/130/158	不整方形	人為堆積	銭貨6点(密着)、煙管雁首1・吸口1点	近世	墓壙
SK 7.1	北	138/105/70	長円形	人為堆積 体を折り曲げた状態で出土	銭貨約19枚、刀子1点、鉄釘1点	近世	墓壙
SK 7.2	北	94/94/96	不整方形	人為堆積 隆骨は身体を折り曲げた状態で検出 鉄釘が多く出土しており、桶というよりも箱に入っていた可能性がある	銭貨約30枚(互いに密着)、簪1点、鉄釘35点	近世	墓壙
SK 7.3	北	92/72/65	不整形	人為堆積	銭貨約16枚(互いに付着)	近世	墓壙
SK 7.4	北	64/-/86	不整形	人為堆積	銭貨3枚、刀子1点	近世	墓壙
SK 7.5	北	80/56/92	不明	人為堆積 埋土上位に扁平な角鍬		近世	墓壙
SK 7.6	北	74/60/93	長円形	人為堆積 埋土中位に鍬		近世	墓壙
SK 7.7	北	68/52/51	長円形	人為堆積	銭貨約30枚(互いに付着)、板材1点、鉄釘11点	近世	墓壙
SK 7.8	北	88/80/92	不明	人為堆積	銭貨4枚、鉄釘12点	江戸時代後期か	墓壙
SK 7.9	北	50/-/103	不明	人為堆積		近世	墓壙
SK 8.0	北	235/214/118	円形	自然堆積 棕褐色土や黄褐色土が流れ込み		縄文時代	貯蔵穴
SK 8.1	北	92/80/52	不明	人為堆積		近世	墓壙
SK 8.2	北	134/98/59	不整形	人為堆積		近世	墓壙
SK 8.3	北	48/-/74	不明	人為堆積		近世	墓壙

第3表 柱穴観察表

遺構名	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	遺構名	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	遺構名	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)
S101 P1	0.448	0.331	0.193	S102 P2	0.802	0.583	0.322	P-2	0.456	0.408	0.174
S101 P2	0.456	0.396	0.263	S102 P3	0.625	0.5	0.364	P-3	0.526	0.359	0.19
S101 P3	0.893	0.571	0.189	S102 P4	0.656	0.405	0.324	P-4	0.656	0.408	0.399
S101 P4	0.353	0.256	0.297	S102 P5	0.533	0.477	0.568	P-5	0.71	0.616	0.258
S101 P5	0.991	0.359	0.429	S102 P6	0.76	0.667	不明	P-6	0.595	0.568	0.466
S102 P1	0.602	0.547	0.313	P-1	0.569	0.538	0.115	P-7	0.541	0.486	0.635

第4表 繩文土器観察表

掲載番号	出土地点・層位	器種	残存部位	文様・装飾・原体・付着物など	胎土	その他
1 S102埋土	鉢	口縁一底		縄文はかなり擦れている	小石微量	
2 S102埋土	深鉢	口縁		高さの異なる波状口縁、細い沈線で長円風区画に磨消、LR	細砂	2と同一
3 S102埋土	深鉢	口縁		口縁肥厚、隆帶貼付		
4 S102埋土	深鉢	口縁		山形の口縁、4本の細粘土紐を並べて貼付	細砂	
5 S102埋土	鉢	口縁		2本の沈線による磨消で長円風文様、LR		
6 S102埋土	ミニチュア	底部		細く浅い枕線		

掲載番号	出土地点・層位	器種	残存部位	文様・装飾・原体・付着物など	胎土	その他
7	遺構外 検出面	深鉢	口縁	細粘土紐を横位・波状に貼付。R.L.	細砂	
8	遺構外 検出面	深鉢	口縁	地文 R.L. の上に沈線と隆帯を組み合わせた円形風文様	細砂	
9	遺構外 検出面	深鉢	口縁	粘土紐と沈線を組み合わせて文様描く。R.L.	細砂	
10	遺構外 検出面	深鉢	体部	隆帯による区画 外面に保		10と同一
11	遺構外 検出面	深鉢	体部	隆帯による区画 R.L.		11と同一
12	遺構外 検出面	深鉢	体部	地文の上に隆帯の貼付	細砂	
13	遺構外 水道管部	深鉢	体部	地紋のみ	細砂	埋設?
510	S I O 2 琉土	深鉢	口縁	波状口縁、細沈線で長円風の区画をして磨消	細砂	2と同一

第5表 土師器観察表

掲載番号	種類	器種	出土地点・層位	法量(cm)			外面調整	内面調整	その他
				口縁	底径	器高			
82	土師器	甕	S I O 1 琉土	-	-	-	口縁弱いヨコナデ、体部弱いヘラナデ	横方向のナデ	1~4同一か
83	土師器	甕	S I O 1 琉土	-	-	-	体部ナデか	ナデ	1~4同一か
84	土師器	甕	S I O 1 琉土	-	-	-	体部ナデか	横方向の弱いナデ	1~4同一か

第6表 陶磁器観察表

掲載番号	器種	出土地点・層位	法量(cm)			釉薬	繪付・文様	産地	年代	その他	
			口径	底径	器高						
22	陶器甕	S K 2 4 琉土	22.5	13.1	20.0	内外面鉄軸		在地	19世紀以降		
23	陶器片口鉢	S K 2 5 琉土	11.6	5.6	5.7	内外面灰軸		在地	19世紀代	見込に目跡	
24	磁器碗	S K 2 7 琉土		3.7	染付	二重網目	肥前	18世紀代	破片の副葬か		
25	磁器紅皿	S K 2 8 琉土	4.7	1.7	1.7	透明釉	肥前	18後~19世紀			
26	磁器碗	S K 2 8 琉土		4.5	染付	肥前	18~19世紀	破片の副葬か			
32	陶器碗	S K 2 9 琉土		3.4	1.4	内面灰軸	在地	19世紀	破片の副葬か		
33	磁器紅皿	S K 3 0 琉土	4.4	1.2	1.3	透明釉	肥前	18後~19世紀	破片の副葬か		
34	陶器碗	S K 3 0 琉土		4.3		内面灰軸、外 面灰軸と鉄軸	波綺碗	瀬戸美濃	18世紀代	破片の副葬か	
39	磁器碗	S K 3 4 琉土	7.0		5.7	染付		肥前	18~19世紀	破片の副葬か	
49	磁器碗	S K 4 7 琉土	7.3	3.4	6.3	染付	海老・富士・ 宝珠等	肥前系	18~19世紀	破片の副葬か	
59	磁器小瓶	S K 6 0 琉土	2.6	4.4	12.2	染付	唐草文	肥前か	18~19世紀	端反ラックヨウ 形	
75	磁器碗	北側調査区Ⅲ区 遺構外	9.7	4.2	5.1	染付	草花文	肥前	18世紀後半		
76	磁器碗	北側調査区Ⅲ区 遺構外	9.2	3.8	5.2	染付	草花文	肥前	18世紀後半		

第7表 羽口観察表

掲載番号	出土地点・層位	残存部位	計測値(cm, g)				外面整形	その他
			長さ	内径	口径	重量		
85	S I O 1 床面	先端部	10.5	3.2	7.7	670.8	不明	炉内澤付着

第8表 鉄滓観察表

掲載番号	出土地点・層位	種別	計測値(cm, g)				磁着	表面色調	特徴
			長さ	幅	厚さ	重量			
520	S I O 1 琉土	鉄滓	11.8	11.3	5.6	850.8	しない	暗褐色	

第9表 鉄製品観察表

掲載番号	器種	出土地点・層位	計測値(cm, g)				その他特記事項
			全長	幅	厚さ	重量	
20	鉄鍋	SK 2.2 墓土	口径 23.4	器高 10.7	0.5	417.2	脚 3
21	金具	SK 2.4 墓土	5.0	2.9	0.4	15.8	円右側が欠損
27	鉄鍋	SK 2.9 墓土	口径 24.0	器高 11.5	0.5	1323.2	脚 3
28	鍵部か	SK 2.9 墓土	17.5	16.0	5.6	100.1	引出の鍵部か
29	刃物	SK 2.9 墓土	25.8	4.4	0.8	271.8	
41	鍬	SK 4.1 墓土	17.0	4.1	0.3	120.7	
42	刀子	SK 4.3 墓土	10.7	2.0	0.4	13.3	
43	刀子	SK 4.3 墓土	8.9	2.0	0.5	10.7	
47	金具	SK 4.7 墓土	8.3	6.2	0.7	30.2	
48	引出取手	SK 4.7 墓土	8.6	5.1	0.8	34.8	
50	鉄鍋	SK 4.7 墓土	口径 23.8	器高 12.6	0.5	1329.6	脚 3、吊手
52	鉄製品	SK 4.9 墓土	3.9	3.7	0.6	49.1	滑車?
53	鍔か	SK 4.9 墓土	3.8	3.4	1.5	13.0	表面に布付
54	鍔か	SK 4.9 墓土	4.5	3.8	1.9	12.2	表面に布付
56	刀子	SK 5.0 墓土	12.0	2.2	0.5	34.5	
60	刀子	SK 6.0 墓土	10.1	2.4	0.6	25.1	
61	刀子	SK 6.0 墓土	11.2	2.0	0.4	22.2	
62	刀子	SK 6.2 墓土	13.0	2.0	0.4	27.7	
64	刀子	SK 6.9 墓土	8.8	1.8	0.4	12.7	
70	刀子	SK 7.4 墓土	7.0	2.0	0.4	14.5	

第10表 銅製品観察表

掲載番号	器種	出土地点・層位	計測値(cm, g)				その他特記事項
			全長	幅	厚さ	重量	
14	連管雁首	SK 0.6 墓土	(4.5)	1.2	火皿径 1.2	8.1	断面隅丸三角形
15	連管雁首	SK 0.6 墓土	(7.0)	1.0	火皿径 1.5	7.9	布付
16	連管	SK 0.6 墓土	(5.2)	1.2	小口径 0.5	9.4	
17	簪	SK 0.7 墓土	(7.0)	0.8	0.2	3.6	
18	連管雁首	SK 1.1 墓土	(8.0)	1.1	火皿径 1.8	11.2	
19	連管	SK 1.1 墓土	(6.5)	1.1	小口径 0.5	7.1	
30	引手金具の一部か	SK 2.9 墓土	7.0	0.7	0.2	5.0	
31	引手金具	SK 2.9 墓土	6.0		0.4	10.1	嵌手
35	毛抜	SK 3.3 墓土	7.2	0.6	0.2	8.3	
36	連管雁首	SK 3.4 墓土			火皿径 1.7	6.2	折れている
37	連管	SK 3.4 墓土	(8.0)	0.9	小口径 0.5	3.4	
38	連管	SK 3.4 墓土	(7.2)	0.9	小口径 0.5	3.6	
40	不明	SK 3.5 墓土	(3.1)	(2.0)	0.1	1.0	
44	連管雁首	SK 4.4 墓土	(6.1)	1.2	火皿径 1.4	13.7	
45	連管	SK 4.4 墓土	(9.7)	1.1	小口径 0.7	14.7	
46	簪	SK 4.4 墓土	16.6	0.8	0.2	15.2	
51	簪	SK 4.8 墓土	18.6	0.9	0.2	14.8	布付
57	連管雁首	SK 5.0	(5.1)	1.1	火皿径 1.5	8.7	布付
58	鏡	SK 6.0 墓土	13.2	7.8	0.3	71.8	
63	簪	SK 6.7 墓土	18.8	0.9	0.3	16.4	
65	連管	SK 6.9 墓土	(6.1)	(1.0)		5.2	
66	連管	SK 6.9 墓土	(8.4)	(1.2)	小口径 0.5	7.3	
67	連管雁首	SK 7.0 墓土	(5.1)	(1.5)	火皿径 1.7	15.5	
68	連管	SK 7.0 墓土	(9.0)	(1.5)	小口径 0.8	18.8	
69	簪	SK 7.2 墓土	13.4	1.1	0.3	9.3	
71	飾具	SK 7.7 墓土	1.1	0.9		0.30	
72	飾具	SK 7.7 墓土	1.5	2.5	0.5	1.90	
73	飾具	SK 7.7 墓土	(2.1)	(2.0)		1.04	
74	飾具	SK 7.7 墓土	(4.7)	0.6	0.1	3.49	

第11表 錢貨観察表

掲載番号	出土地点	層位	銭貨名	種類	初鑄年 鑄造年	材質	厚さ (mm)	重量g	その他
86 SK	7	埋土	不明	不明	不明	銅	1.49	6.74	板に装飾として付
87 SK	7	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.49	2.15	背無
88 SK	7	埋土	不明	不明	不明	銅	5.14	10.17	複数枚
89 SK	10	埋土	不明	不明	不明	銅	1.15	2.07	
90 SK	10	埋土	寛永通宝	古寛永	1636	銅	1.19	3.03	
91 SK	10	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.30	2.81	背無
92 SK	10	埋土	不明	不明	不明	銅	1.35	2.73	
93 SK	10	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.14	2.37	背無
94 SK	10	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.30	2.71	背無
95 SK	11	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.26	2.82	背無
96 SK	11	埋土	寛永通宝	古寛永	1636	銅	1.32	3.30	
97 SK	12	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.08	2.54	背無
98 SK	12	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.02	2.72	背無
99 SK	12	埋土	寛永通宝	古寛永	1636	銅	1.37	3.57	
100 SK	12	埋土	寛永通宝	新寛永	1668	銅	1.22	3.32	背文
101 SK	12	埋土	寛永通宝	新寛永	1668	銅	1.28	3.20	背文
102 SK	18	埋土	寛永通宝	古寛永	1636	銅	11.13	31.18	8枚付
103 SK	22	埋土	寛永通宝	古寛永	1636	銅	1.36	3.31	
104 SK	22	埋土	寛永通宝	古寛永	1636	銅	1.18	2.94	
105 SK	22	埋土	寛永通宝	古寛永	1636	銅	1.28	3.49	
106 SK	22	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.34	2.91	背無
107 SK	24	埋土	寛永通宝	新寛永	不明	銅	1.25	2.46	
108 SK	24	埋土	寛永通宝	新寛永	1668	銅	1.27	3.14	背文
109 SK	24	埋土	不明	不明	不明	銅	1.39	3.94	
110 SK	24	埋土	不明	不明	不明	銅	1.26	4.40	
111 SK	25	埋土	寛永通宝	古寛永	1636	銅	1.45	3.67	
112 SK	25	埋土	不明	不明	不明	銅	5.68	11.40	複数枚
113 SK	27	埋土	寛永通宝	不明	不明	銅	1.42	2.14	
114 SK	28	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	0.88	2.52	背無
115 SK	28	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.00	2.42	背無
116 SK	29	埋土	寛永通宝	古寛永	1636	銅	0.88	2.42	
117 SK	29	埋土	寛永通宝	新寛永	1668	銅	1.15	2.43	背文
118 SK	29	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.35	2.96	背無
119 SK	29	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.17	2.37	背無
120 SK	29	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.04	2.42	背無
121 SK	29	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.06	2.25	背無
122 SK	29	埋土	不明	不明	不明	銅	1.11	2.93	
123 SK	29	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.09	2.30	背無 複数の孔
124 SK	29	埋土	寛永通宝	不明	不明	銅	0.94	2.34	
125 SK	29	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.10	2.06	背無
126 SK	29	埋土	寛永通宝	新寛永	1668	銅	1.26	2.71	背文
127 SK	29	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.17	2.74	背無
128 SK	29	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.10	2.28	背無
129 SK	29	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.07	2.67	背無
130 SK	29	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	0.84	2.26	背無
131 SK	29	埋土	寛永通宝	不明	不明	銅	1.37	2.29	
132 SK	29	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.26	2.91	背無
133 SK	29	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	0.94	2.15	背無
134 SK	29	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	0.88	1.40	背無
135 SK	29	埋土	寛永通宝	古寛永	1636	銅	1.29	2.10	
136 SK	29	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.18	3.08	背無
137 SK	29	埋土	寛永通宝	新寛永	1668	銅	1.16	1.40	背文
138 SK	30	埋土	不明	不明	不明	銅	2.05	4.68	2枚付
139 SK	30	埋土	寛永通宝	新寛永	1668	銅	1.45	3.74	背文
140 SK	30	埋土	不明	不明	不明	鉄か	2.21	3.17	
141 SK	33	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.44	3.45	背無
142 SK	33	埋土	寛永通宝	新寛永	1668	銅	1.39	3.70	背文
143 SK	33	埋土	寛永通宝	新寛永	1668	銅	1.14	2.80	背文
144 SK	33	埋土	寛永通宝	不明	不明	銅	1.21	2.75	
145 SK	33	埋土	寛永通宝	不明	不明	銅	1.04	2.35	
146 SK	33	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.29	3.58	背無
147 SK	33	埋土	不明	不明	不明	銅	1.07	2.34	
148 SK	33	埋土	寛永通宝	古寛永	1636	銅	1.42	3.58	
149 SK	33	埋土	寛永通宝	古寛永	1636	銅	1.22	3.82	
150 SK	33	埋土	寛永通宝	新寛永	1668	銅	1.30	3.61	背文
151 SK	33	埋土	寛永通宝	新寛永	1668	銅	1.34	2.98	背文
152 SK	33	埋土	渋米錢	渋米錢	中世	銅	1.67	3.42	
153 SK	34	埋土	寛永通宝	新寛永	1668	銅	2.26	3.98	2枚付
154 SK	34	埋土	不明	不明	不明	銅	1.37	2.11	
155 SK	34	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.37	3.25	背無
156 SK	34	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.09	2.32	背無

掲載番号	出土地点	層位	銭貨名	種類	初鑄年 鉄造年	材質	厚さ (mm)	重量g	その他
157	SK	34	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.19	2.18 青無
158	SK	34	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.36	3.02 青無
159	SK	34	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.39	3.05 青無
160	SK	34	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	2.80	6.89 3枚付
161	SK	34	埋土	寛永通宝	新寛永	不明	銅	4.37	9.94 4枚付
162	SK	34	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.06	2.17
163	SK	34	埋土	寛永通宝	古寛永	1636	銅	1.37	3.04
164	SK	34	埋土	寛永通宝	新寛永	1636	銅	1.24	2.22
165	SK	34	埋土	寛永通宝	不明	1636	銅	1.18	2.32
166	SK	34	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.35	2.18
167	SK	34	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.59	3.49
168	SK	34	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.46	3.84
169	SK	34	埋土	寛永通宝	不明	不明	銅	1.29	3.22
170	SK	34	埋土	寛永通宝	不明	不明	銅	3.15	4.87 複数枚
171	SK	36	埋土	寛永通宝	古寛永	1636	銅	0.86	2.38
172	SK	36	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.38	3.77 青無
173	SK	36	埋土	寛永通宝	新寛永	1668	銅	1.45	3.76 青文
174	SK	36	埋土	寛永通宝	不明	不明	銅	1.16	2.96
175	SK	36	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.44	4.39 青無
176	SK	36	埋土	寛永通宝	新寛永	1668	銅	1.41	3.94 青文
177	SK	36	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.42	3.65 青無
178	SK	36	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.39	3.46 青無
179	SK	36	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.55	3.83 青無
180	SK	36	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.41	3.28 青無
181	SK	43	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.50	3.26 青無
182	SK	43	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.49	3.26 青無
183	SK	43	埋土	寛永通宝	新寛永	1668	銅	1.44	3.72 青文
184	SK	44	埋土	不明	不明	不明	銅	1.17	2.89
185	SK	44	埋土	不明	不明	不明	銅	1.20	3.12
186	SK	44	埋土	不明	不明	不明	銅	1.10	2.35
187	SK	44	埋土	不明	不明	不明	銅	2.10	5.11 2枚付
188	SK	44	埋土	不明	不明	不明	銅	2.28	4.53 2枚付
189	SK	44	埋土	鏃錢小	不明	不明	銅	2.14	5.30 2枚付
190	SK	44	埋土	寛永通宝	不明	不明	銅	1.22	3.62
191	SK	44	埋土	不明	不明	不明	銅	1.11	2.65
192	SK	44	埋土	不明	不明	不明	銅	3.17	5.93 2枚兼
193	SK	44	埋土	不明	不明	不明	銅	3.31	4.37
194	SK	47	埋土	寛永通宝	新寛永	1668	銅	1.23	3.32 青文
195	SK	48	埋土	寛永通宝	不明	不明	銅	1.58	2.93
196	SK	48	埋土	寛永通宝	新寛永	1768	銅	1.31	3.58 青波 布付
197	SK	48	埋土	不明	不明	不明	銅	1.31	2.39
198	SK	48	埋土	寛永通宝	不明	不明	銅	1.15	2.57
199	SK	48	埋土	寛永通宝	新寛永	不明	銅	1.45	3.62
200	SK	48	埋土	不明	不明	不明	銅	1.26	2.88
201	SK	48	埋土	寛永通宝	新寛永	不明	銅	1.12	1.71
202	SK	48	埋土	寛永通宝	不明	不明	銅	1.33	2.77
203	SK	48	埋土	不明	不明	不明	銅	1.09	2.04
204	SK	48	埋土	寛永通宝	不明	不明	銅	1.56	3.19
205	SK	48	埋土	寛永通宝	不明	不明	銅	1.29	3.05
206	SK	48	埋土	不明	不明	不明	銅	1.15	2.99
207	SK	48	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.15	2.80 青無
208	SK	48	埋土	不明	不明	不明	銅	1.11	2.22
209	SK	48	埋土	不明	不明	不明	銅	1.16	3.20
210	SK	48	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	0.98	2.41 青無
211	SK	48	埋土	寛永通宝	不明	不明	銅	1.44	3.42
212	SK	48	埋土	不明	不明	不明	銅	1.28	3.12
213	SK	48	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.54	2.82 青無
214	SK	48	埋土	寛永通宝	古寛永	1636	銅	1.39	3.02
215	SK	48	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.11	2.46 青無
216	SK	48	埋土	不明	不明	不明	銅	1.01	2.72
217	SK	48	埋土	寛永通宝	不明	不明	銅	1.44	2.49
218	SK	48	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.09	2.64
219	SK	48	埋土	不明	不明	不明	銅	1.30	3.50
220	SK	48	埋土	不明	不明	不明	銅	1.20	3.53
221	SK	48	埋土	不明	不明	不明	銅	1.08	2.21
222	SK	48	埋土	不明	不明	不明	銅	1.12	2.74
223	SK	48	埋土	不明	不明	不明	銅	1.14	2.35
224	SK	48	埋土	不明	不明	不明	銅	1.19	2.54
225	SK	48	埋土	寛永通宝	古寛永	1636	銅	1.24	3.30
226	SK	48	埋土	不明	不明	不明	銅	1.44	4.35
227	SK	48	埋土	不明	不明	不明	銅	1.36	3.28
228	SK	48	埋土	寛永通宝	古寛永	1636	銅	1.17	3.18

掲載 番号	出土地点	層位	銭貨名	種類	初鑄年 鉄造年	材質	厚さ (mm)	重量g	その他	
229	SK	48	埋土	寛永通宝	不明	不明	1.32	2.75		
230	SK	48	埋土	文久永宝	不明	1863	1.27	3.42		
231	SK	48	埋土	不明	不明	不明	1.10	2.05		
232	SK	48	埋土	不明	不明	不明	4.02	8.33	3枚付	
233	SK	48	埋土	寛永通宝	吉賀水	1636	銅	1.12	2.93	
234	SK	48	埋土	不明	不明	不明	4.14	9.33		
235	SK	48	埋土	文久永宝	不明	1863	銅	1.51	3.63	
236	SK	48	埋土	文久永宝	草文	1863	銅	1.07	3.22	
237	SK	48	埋土	文久永宝	草文	1863	銅	1.22	4.15	
238	SK	48	埋土	文久永宝	草文	1863	銅	4.46	14.27	複数枚付
239	SK	48	埋土	文久永宝	不明	1863	銅	1.17	3.77	
240	SK	48	埋土	文久永宝	草文	1863	銅	1.16	3.81	
241	SK	48	埋土	文久永宝	草文	1863	銅	1.13	3.68	
242	SK	48	埋土	近代	明治	銅	1.68	6.78		
243	SK	48	埋土	文久永宝	真文	1863	銅	0.93	3.14	
244	SK	48	埋土	明治	一錢	銅	1.70	6.87		
245	SK	48	埋土	明治	一錢	銅	1.59	6.99		
246	SK	48	埋土	明治	一錢	明治十年	銅	1.64	6.74	
247	SK	48	埋土	明治	一錢	明治	銅	2.50	14.54	
248	SK	48	埋土	天保通宝	當百	1835	銅	2.78	21.88	
249	SK	48	埋土	天保通宝	當百	1835	銅	2.90	21.71	
251	SK	48	埋土	不明	不明	不明	銅	4.99	10.28	複数枚
252	SK	48	埋土	不明	不明	不明	銅	4.33	6.71	2枚
253	SK	49	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.05	2.63	背無
254	SK	49	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.13	2.63	背無
255	SK	49	埋土	寛永通宝	不明	不明	銅	2.05	5.84	
256	SK	49	埋土	寛永通宝	不明	不明	銅	0.99	2.25	
257	SK	49	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.18	2.84	背無
258	SK	49	埋土	不明	不明	不明	銅	1.81	4.63	
259	SK	49	埋土	不明	不明	不明	銅	2.28	5.07	
260	SK	49	埋土	不明	不明	不明	銅	2.40	6.05	
261	SK	49	埋土	不明	不明	不明	銅	3.25	10.28	2枚付
262	SK	49	埋土	不明	不明	不明	銅	1.31	2.09	
263	SK	49	埋土	不明	不明	不明	銅	2.16	5.69	背波
264	SK	49	埋土	不明	不明	不明	銅	1.66	4.80	背波
265	SK	49	埋土	不明	不明	不明	銅	2.99	5.57	2枚付
266	SK	49	埋土	不明	不明	不明	銅	1.80	3.33	
267	SK	49	埋土	不明	不明	不明	銅	1.61	5.29	
268	SK	49	埋土	不明	不明	不明	銅	1.73	4.62	
269	SK	49	埋土	不明	不明	不明	銅	2.65	2.90	
270	SK	49	埋土	不明	不明	不明	銅	4.95	11.37	2枚付
271	SK	49	埋土	寛永通宝	新寛永	不明	銅	1.90	2.77	不明
272	SK	49	埋土	不明	不明	不明	銅	1.68	5.68	
273	SK	49	埋土	不明	不明	不明	銅	2.59	5.88	
274	SK	49	埋土	不明	不明	不明	銅	2.71	8.26	
275	SK	49	埋土	不明	不明	不明	銅	1.96	5.52	
276	SK	49	埋土	不明	不明	不明	銅	2.10	1.89	
277	SK	49	埋土	不明	不明	不明	銅	1.82	1.85	
278	SK	49	埋土	不明	不明	不明	銅	1.62	3.77	
279	SK	49	埋土	不明	不明	不明	銅	2.07	6.16	
280	SK	49	埋土	不明	不明	不明	銅	1.59	3.29	
281	SK	49	埋土	不明	不明	不明	銅	3.77	9.13	2枚付
282	SK	49	埋土	不明	不明	不明	銅	2.66	9.14	2枚付
283	SK	49	埋土	不明	不明	不明	銅	1.60	3.25	
284	SK	49	埋土	不明	不明	不明	銅	3.99	11.51	2枚付
285	SK	49	埋土	不明	不明	不明	銅	1.76	1.51	
286	SK	49	埋土	不明	不明	不明	銅	1.51	4.62	
287	SK	49	埋土	不明	不明	不明	銅	1.72	3.25	
288	SK	49	埋土	不明	不明	不明	銅	2.08	4.77	
289	SK	49	埋土	不明	不明	不明	銅	1.85	4.24	
290	SK	49	埋土	不明	不明	不明	銅	2.03	6.15	
291	SK	49	埋土	不明	不明	不明	銅	1.76	3.06	
292	SK	49	埋土	不明	不明	不明	銅	1.96	4.83	
293	SK	49	埋土	寛永通宝	不明	不明	銅	1.84	5.73	
294	SK	49	埋土	不明	不明	不明	銅	1.98	5.25	
295	SK	49	埋土	不明	不明	不明	銅	1.59	5.45	
296	SK	49	埋土	不明	不明	不明	銅	2.44	6.57	
297	SK	49	埋土	不明	不明	不明	銅	2.07	5.96	
298	SK	49	埋土	不明	不明	不明	銅	1.59	3.33	
299	SK	49	埋土	不明	不明	不明	銅	2.09	2.71	
300	SK	49	埋土	不明	不明	不明	銅	2.35	7.13	
301	SK	49	埋土	不明	不明	不明	銅	3.86	8.17	複数枚

掲載 番号	出土地点	層位	銭貨名	種類	初鑄年 鉄造年	材質	厚さ (mm)	重量g	その他	
302	SK	49	埋土	不明	不明	不明	3.11	9.19	2枚	
303	SK	49	埋土	不明	不明	鉄か	5.22	10.81	複数枚	
304	SK	49	埋土	不明	不明	銅	6.55	9.92	複数枚	
305	SK	49	埋土	不明	不明	鉄か	4.57	6.77	2枚	
306	SK	47	埋土	不明	不明	銅	1.17	21.57	板に装飾として付	
307	SK	47	埋土	不明	不明	銅	1.30	5.56	板に装飾として付	
308	SK	47	埋土	不明	不明	銅	0.99	8.20	板に装飾として付	
309	SK	48/51	埋土	寛永通宝	新貢水	1697	銅	0.89	1.94	背無
310	SK	48/51	埋土	寛永通宝	新貢水	1697	銅	0.99	2.96	背無
311	SK	48/51	埋土	寛永通宝	新貢水	不明	銅	2.93	7.24	複数枚付
312	SK	48/51	埋土	寛永通宝	新貢水	不明	銅	3.41	9.09	3枚付
313	SK	50	埋土	不明	不明	銅	1.22	3.07		
314	SK	50	埋土	寛永通宝	新貢水	1697	銅	1.06	2.47	背無
315	SK	50	埋土	寛永通宝	新貢水	1697	銅	1.23	3.37	背無
316	SK	50	埋土	寛永通宝	新貢水	1697	銅	1.22	2.95	背無
317	SK	50	埋土	不明	不明	銅	1.05	2.87	複数枚付	
318	SK	50	埋土	寛永通宝	新貢水	1697	銅	1.12	2.66	背無
319	SK	50	埋土	寛永通宝	新貢水	1697	銅	1.59	4.30	背無
320	SK	50	埋土	寛永通宝	新貢水	1697	銅	1.31	3.41	背無
321	SK	50	埋土	寛永通宝	新貢水	1697	銅	1.15	3.09	背無
322	SK	50	埋土	寛永通宝	新貢水	1697	銅	1.01	1.94	背無
323	SK	50	埋土	寛永通宝	新貢水	1697	銅	1.24	2.98	背無
324	SK	50	埋土	寛永通宝	新貢水	1697	銅	1.04	2.57	背無
325	SK	50	埋土	寛永通宝	古貢水	1636	銅	1.07	2.72	
326	SK	50	埋土	寛永通宝	新貢水	1697	銅	1.05	2.59	背無
327	SK	50	埋土	寛永通宝	不明	銅	1.01	2.70		
328	SK	50	埋土	寛永通宝	新貢水	1697	銅	1.04	2.42	背無
329	SK	50	埋土	寛永通宝	古貢水	1636	銅	1.12	3.11	
330	SK	50	埋土	不明	不明	銅	1.25	3.02		
331	SK	50	埋土	不明	不明	銅	1.14	2.84		
332	SK	50	埋土	寛永通宝	不明	銅	3.61	8.37	3枚付	
333	SK	50	埋土	寛永通宝	古貢水	1636	銅	1.24	3.60	
334	SK	50	埋土	寛永通宝	新貢水	1697	銅	1.03	2.71	背無
335	SK	50	埋土	寛永通宝	新貢水	1697	銅	1.01	2.44	背無
336	SK	50	埋土	寛永通宝	新貢水	1697	銅	1.07	2.77	背無
337	SK	50	埋土	寛永通宝	新貢水	1668	銅	1.48	4.22	背文
338	SK	50	埋土	寛永通宝	新貢水	1668	銅	1.32	3.51	背文
339	SK	50	埋土	寛永通宝	古貢水	1636	銅	1.35	3.11	
340	SK	50	埋土	寛永通宝	新貢水	1697	銅	1.30	3.97	背無
341	SK	50	埋土	寛永通宝	新貢水	1697	銅	1.34	3.74	背無
342	SK	50	埋土	寛永通宝	新貢水	1697	銅	1.16	2.60	背無
343	SK	50	埋土	寛永通宝	古貢水	1636	銅	1.32	3.58	
344	SK	50	埋土	寛永通宝	古貢水	1636	銅	1.25	3.60	
345	SK	50	埋土	寛永通宝	新貢水	1697	銅	1.00	2.79	背無
346	SK	50	埋土	寛永通宝	新貢水	1697	銅	1.01	2.67	背無
347	SK	50	埋土	寛永通宝	新貢水	1697	銅	1.10	2.33	背無
348	SK	50	埋土	寛永通宝	新貢水	1697	銅	1.16	2.70	背無
349	SK	50	埋土	寛永通宝	新貢水	1697	銅	1.05	2.41	背無
350	SK	50	埋土	寛永通宝	新貢水	1697	銅	1.13	2.95	背無
351	SK	50	埋土	寛永通宝	新貢水	1697	銅	1.05	2.27	背無
352	SK	50	埋土	寛永通宝	新貢水	1697	銅	1.07	2.79	背無
353	SK	50	埋土	寛永通宝	新貢水	1697	銅	1.21	2.63	背無
354	SK	50	埋土	寛永通宝	新貢水	1697	銅	0.94	2.29	背無
355	SK	50	埋土	寛永通宝	新貢水	1697	銅	1.11	2.59	背無
356	SK	50	埋土	寛永通宝	古貢水	1636	銅	1.35	3.93	
357	SK	50	埋土	寛永通宝	新貢水	1697	銅	1.38	3.27	背無
358	SK	50	埋土	寛永通宝	古貢水	1636	銅	1.15	3.18	
359	SK	50	埋土	寛永通宝	新貢水	1697	銅	1.16	2.38	背元
360	SK	50	埋土	寛永通宝	新貢水	1697	銅	1.24	2.44	背元
361	SK	50	埋土	寛永通宝	新貢水	1697	銅	1.31	3.09	背無
362	SK	50	埋土	寛永通宝	新貢水	1697	銅	1.05	2.75	背無
363	SK	50	埋土	寛永通宝	新貢水	1668	銅	1.15	3.04	背文
364	SK	50	埋土	寛永通宝	新貢水	1697	銅	1.14	2.61	背無
365	SK	50	埋土	寛永通宝	新貢水	1697	銅	0.99	2.23	背無
366	SK	50	埋土	寛永通宝	新貢水	1697	銅	1.18	3.17	背無
367	SK	50	埋土	不明	不明	銅	1.47	3.18		
368	SK	50	埋土	不明	不明	銅	1.39	2.80		
369	SK	50	埋土	不明	不明	銅	2.37	6.66	2枚	
370	SK	50	埋土	不明	不明	銅	1.84	4.14		
371	SK	50	埋土	不明	不明	銅	3.22	7.04	2枚	
372	SK	50	埋土	寛永通宝	新貢水	1697	銅	2.44	6.27	2枚
373	SK	50	埋土	不明	不明	銅	1.04	6.35		

掲載 番号	出土地点	層位	銭貨名	種類	初鑄年 鉄造年	材質	厚さ (mm)	重量g	その他
374	SK	51	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.33	1.58 背無
375	SK	51	埋土	寛永通宝	不明	銅	1.31	3.28	
376	SK	51	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.32	3.04 背無
377	SK	51	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.17	2.92 背無
378	SK	51	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.52	3.83 背無
379	SK	51	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.40	3.84 背無
380	SK	51	埋土	寛永通宝	不明	銅	1.12	2.62	
381	SK	51	埋土	寛永通宝	不明	銅	1.68	4.29	
382	SK	51	埋土	腰錢小	名なし	銅	0.92	1.92	
383	SK	51	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.14	2.54 背無
384	SK	51	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.24	3.60 背無
385	SK	51	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.28	3.10 背無
386	SK	51	埋土	寛永通宝	新寛永	不明	銅	1.49	3.83
387	SK	51	埋土	不明	不明	銅	1.43	2.80 布付	
388	SK	51	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.27	3.24 背無
389	SK	51	埋土	不明	不明	銅	1.76	2.47	
390	SK	51	埋土	寛永通宝	不明	銅	1.36	3.77	
391	SK	51	埋土	不明	不明	銅	5.43	9.16	3枚付
392	SK	51	埋土	不明	不明	銅	2.76	4.40	
393	SK	51	埋土	不明	不明	銅	2.00	3.63	
394	SK	56	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.33	2.88 背無
395	SK	56	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.55	4.05 背無
396	SK	56	埋土	寛永通宝	古寛永	1636	銅	1.28	3.71
397	SK	56	埋土	寛永通宝	不明	銅	1.04	2.43	
398	SK	56	埋土	寛永通宝	古寛永	1636	銅	1.17	2.99
399	SK	56	埋土	寛永通宝	不明	銅	1.19	2.56	
400	SK	57	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.04	2.04 背無
401	SK	57	埋土	寛永通宝	新寛永	1668	銅	1.27	3.21 背文
402	SK	57	埋土	寛永通宝	新寛永	不明	銅	1.18	1.54
403	SK	57	埋土	寛永通宝	新寛永	不明	銅	1.11	2.79
404	SK	57	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.14	2.58 背無
405	SK	57	埋土	寛永通宝	不明	銅	1.39	3.13	
406	SK	57	埋土	不明	不明	銅	4.04	6.64 錐釘發行着	
407	SK	60	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.29	2.81 背無
408	SK	60	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.37	3.69 背無
409	SK	60	埋土	寛永通宝	不明	銅	1.62	3.35	
410	SK	60	埋土	寛永通宝	古寛永	1636	銅	1.26	2.96
411	SK	60	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	0.95	2.18 背無
412	SK	60	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.10	2.89 背無
413	SK	60	埋土	不明	不明	銅	1.12	2.06	
414	SK	60	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	0.93	2.48 背無
415	SK	60	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.33	3.28 背無
416	SK	60	埋土	寛永通宝	新寛永	1668	銅	1.21	3.41 背文
417	SK	60	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.03	2.33 背無
418	SK	60	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.01	2.57 背無
419	SK	60	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.48	3.22 背無
420	SK	60	埋土	不明	不明	銅	0.98	2.35	
421	SK	60	埋土	寛永通宝	新寛永	1668	銅	1.25	3.54 背文
422	SK	60	埋土	寛永通宝	古寛永	1636	銅	1.16	3.38
423	SK	60	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	0.91	2.13 背無
424	SK	60	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.50	3.34 背無
425	SK	60	埋土	寛永通宝	不明	銅	1.57	4.00	
426	SK	60	埋土	不明	不明	銅	1.05	2.36	
427	SK	60	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.18	2.71 背無
428	SK	60	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.20	1.84 背無
429	SK	60	埋土	寛永通宝	新寛永	1668	銅	1.38	3.14 背文
430	SK	60	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.43	4.00
431	SK	60	埋土	不明	不明	銅	1.22	4.95 2枚	
432	SK	60	埋土	不明	不明	銅	3.70	5.21 2枚	
433	SK	60	埋土	不明	不明	銅	6.86	10.51 3枚	
434	SK	61	埋土	不明	不明	銅	2.03	3.94	
435	SK	62	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.05	2.84 背無
436	SK	62	埋土	寛永通宝	新寛永	1668	銅	1.20	3.43 背文
437	SK	62	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.35	2.98 背無
438	SK	62	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.13	2.69 背無
439	SK	62	埋土	寛永通宝	不明	銅	1.27	3.57	
440	SK	62	埋土	寛永通宝	古寛永	1636	銅	1.13	3.11
441	SK	63	埋土	不明	不明	銅	3.08	板に装飾として付	
442	SK	63	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.09	2.89 背無
443	SK	63	埋土	不明	不明	銅	2.22	5.85 2枚付	
444	SK	63	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	0.89	1.93 背無
445	SK	63	埋土	不明	不明	銅	2.14	2.55	

掲載番号	出土地点	層位	銭貨名	種類	初跡年 鉄造年	材質	厚さ (mm)	重量g	その他
446	SK	67	埋土	不明	不明	銅	12.55	27.05	複数枚付
447	SK	67	埋土	寛永通宝	新寛永	銅	3.07	6.99	3枚台
448	SK	67	埋土	不明	不明	銅	6.38	16.50	3枚付
449	SK	69	埋土	不明	不明	銅	1.40	2.38	
450	SK	69	埋土	不明	不明	銅	1.93	3.11	
451	SK	69	埋土	不明	不明	銅	1.46	2.92	
452	SK	69	埋土	不明	不明	銅	1.23	2.91	
453	SK	69	埋土	不明	不明	銅	1.49	3.29	
454	SK	69	埋土	不明	不明	銅	2.62	6.04	2枚付
455	SK	69	埋土	寛永通宝	新寛永	銅	1.07	2.49	背無
456	SK	69	埋土	寛永通宝	新寛永	銅	1.15	3.94	背面に突起物有
457	SK	71	埋土	寛永通宝	古寛永	銅	1.17	3.26	
458	SK	71	埋土	寛永通宝	新寛永	銅	2.22	5.70	2枚付
459	SK	71	埋土	不明	不明	銅	5.37	13.24	5枚付
460	SK	71	埋土	不明	不明	銅	3.83	5.20	複数枚付、鍍鉄被付
461	SK	71	埋土	不明	不明	銅	6.51	7.07	鍍鉄被付有
462	SK	72	埋土	寛永通宝	新寛永	銅	1.30	2.98	背無
463	SK	72	埋土	寛永通宝	不明	銅	1.03	1.83	
464	SK	72	埋土	不明	不明	銅	0.94	2.13	
465	SK	72	埋土	寛永通宝	古寛永	銅	1.16	2.84	
466	SK	72	埋土	寛永通宝	新寛永	銅	1.18	2.40	背無
467	SK	72	埋土	寛永通宝	新寛永	銅	1.27	3.16	背無
468	SK	72	埋土	寛永通宝	新寛永	銅	1.06	2.41	背無
469	SK	72	埋土	不明	不明	銅	1.04	2.17	
470	SK	72	埋土	寛永通宝	不明	銅	0.95	2.55	
471	SK	72	埋土	不明	不明	銅	2.91	3.35	
472	SK	72	埋土	不明	不明	銅	3.76	3.49	
473	SK	72	埋土	不明	不明	銅	11.54	18.36	複数枚
474	SK	73	埋土	寛永通宝	新寛永	銅	1.20	2.70	背無
475	SK	73	埋土	寛永通宝	新寛永	銅	1.21	4.93	確認するところ
476	SK	73	埋土	寛永通宝	新寛永	銅	1.60	5.45	背波
477	SK	73	埋土	寛永通宝	新寛永	銅	1.32	3.26	背無
478	SK	73	埋土	寛永通宝	新寛永	銅	0.94	2.13	背無
479	SK	73	埋土	寛永通宝	古寛永	銅	1.07	2.61	
480	SK	73	埋土	不明	不明	銅	1.47	2.26	
481	SK	73	埋土	寛永通宝	新寛永	銅	1.24	3.27	
482	SK	73	埋土	寛永通宝	新寛永	銅	1.03	2.25	背無
483	SK	73	埋土	寛永通宝	不明	銅	0.96	2.45	
484	SK	73	埋土	不明	不明	銅	5.96	13.56	複数枚
485	SK	74	埋土	寛永通宝	古寛永	銅	1.49	3.62	
486	SK	74	埋土	寛永通宝	新寛永	銅	1.27	2.82	背無
487	SK	74	埋土	寛永通宝	新寛永	銅	1.43	2.50	背無
488	SK	77	埋土	寛永通宝	新寛永	銅	1.26	2.67	背無
489	SK	77	埋土	寛永通宝	古寛永	銅	1.12	3.43	
490	SK	77	埋土	祐祐通宝	中世	銅	1.26	3.52	
491	SK	77	埋土	不明	不明	銅	1.37	3.35	
492	SK	78	埋土	寛永通宝	新寛永	銅	1.27	2.51	背無
493	SK	78	埋土	寛永通宝	新寛永	銅	1.38	3.82	背文
494	SK	78	埋土	不明	不明	銅	1.15	3.04	複数枚付
495	北調	III区 齋構外	寛永通宝	新寛永	銅	1.17	2.42	背無	
501	SK	44	埋土	不明	不明	銅	7.35	14.89	複数枚
502	SK	44	埋土	不明	不明	銅	6.00	10.02	複数枚
503	SK	44	埋土	不明	不明	銅	4.89	8.94	複数枚
504	SK	44	埋土	不明	不明	銅	3.59	3.27	
505	SK	48	埋土	不明	不明	銅	2.09	3.42	破碎
506	SK	49	埋土	不明	不明	銅	19.53	49.43	複数枚
507	SK	51	埋土	不明	不明	銅	3.55	4.91	
508	SK	60	埋土	不明	不明	銅	4.39	10.11	複数枚
509	SK	60	埋土	不明	不明	銅	18.47	49.49	複数枚
441	SK	63	埋土	寛永通宝	不明	銅	1.33	3.04	359の一部
510	SK	69	埋土	寛永通宝	不明	銅	6.22	4.77	3枚
511	SK	70	埋土	不明	不明	銅	16.14	24.22	複数枚
512	SK	72	埋土	不明	不明	銅	19.00	35.80	複数枚
513	SK	77	埋土	不明	不明	銅	32.47	81.27	複数枚

第12表 石器類観察表

掲載番号	出土地点・層位	器種	計測値 (cm. g.)			石材	その他
			長さ	幅	厚さ		
77	遺構外	石鏟	3.2	1.6	0.2	1.62	頁岩 中生代 北上山地
78	S I O 2 墓	削器	1.8	2.9	0.5	3.59	頁岩 中生代 北上山地
79	S I O 2 墓	磨石	12.5	7.8	6.6	818.9	頁岩 開縫研磨 中生代白堊紀 北上山地
80	南側調査区段出面	石棒か	5.6	2.3	2.1	55.5	鷹巣石 古生代オルビス紀 早瀬峰山周辺 未完成品
81	S K O 3 墓	磨石	6.1	4.4	5.3	166.5	頁岩 開縫研磨 中生代白堊紀 北上山地

V 自然科学分析

赤前Ⅲ遺跡における放射性炭素年代 (AMS測定)

(株) 加速器分析研究所

1 測定対象試料

赤前Ⅲ遺跡は、岩手県宮古市赤前第10地割ほか(北緯 $39^{\circ} 34' 51''$ 、東経 $141^{\circ} 57' 26''$)に所在する。測定対象試料は、堅穴住居跡と炭窯跡から出土した炭化物2点である(表1)。

2 測定の意義

出土遺物が少ないため、遺構の年代を決定する根拠の一つとする。

3 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸(AAA : Acid Alkali Acid)処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常 1mol/l (1M)の塩酸(HCl)を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム(NaOH)水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と表1に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素(CO₂)を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト(C)を生成させる。
- (6) グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

4 測定方法

加速器をベースとした¹⁴C-AMS専用装置(NEC社製)を使用し、¹⁴Cの計数、¹³C濃度(¹³C/¹²C)、¹⁴C濃度(¹⁴C/¹²C)の測定を行う。測定では、米国国立標準局(NIST)から提供されたシュウ酸(HOx II)を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5 算出方法

- (1) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の¹³C濃度(¹³C/¹²C)を測定し、基準試料からの差を千分偏差(‰)で表した値である(表1)。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) ¹⁴C年代(Libby Age : yrBP)は、過去の大気中¹⁴C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年(0yrBP)として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期(5568年)を使用する(Stuiver and Polach 1977)。¹⁴C年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。¹⁴C年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、¹⁴C年代の誤差($\pm 1\sigma$)は、試料の¹⁴C年代がその誤差

範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。

- (3) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の¹⁴C 濃度の割合である。pMC が小さい(¹⁴C が少ない)ほど古い年代を示し、pMC が100以上(¹⁴C の量が標準現代炭素と同等以上)の場合 Modern とする。この値も δ¹⁴C によって補正する必要があるため、補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。
- (4) 历年較正年代とは、年代が既知の試料の¹⁴C 濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の¹⁴C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。历年較正年代は、¹⁴C 年代に対応する較正曲線上の历年年代範囲であり、1 標準偏差($1\sigma = 68.2\%$)あるいは2 標準偏差($2\sigma = 95.4\%$)で表示される。グラフの縦軸が¹⁴C 年代、横軸が历年較正年代を表す。历年較正プログラムに入力される値は、δ¹⁴C 補正を行い、下1桁を丸めない¹⁴C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、历年較正年代の計算に、IntCal13データベース(Reimer et al. 2013)を用い、OxCalv4.2較正プログラム(Bronk Ramsey 2009)を使用した。历年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表2に示した。历年較正年代は、¹⁴C 年代に基づいて較正(calibrate)された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」または「cal BP」という単位で表される。

6 測定結果

測定結果を表1、2に示す。

試料の¹⁴C 年代は、1 が 1100 ± 20 yrBP、2 が 820 ± 20 yrBP である。历年較正年代(1σ)は、1 が900～985cal AD の間に2つの範囲、2 が1211～1257cal AD の範囲で示される。

試料の炭素含有率はいずれも60%を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

表1 放射性炭素年代測定結果(δ¹⁴C補正值)

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ ¹⁴ C (‰) (AMS)	δ ¹⁴ C 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-152649	1	1号住居跡 墓土	炭化物	AAA	-24.31 ± 0.24	1,100 ± 20	87.24 ± 0.26
IAAA-152650	2	1号墓窓跡 墓土	炭化物	AAA	-25.10 ± 0.31	820 ± 20	90.30 ± 0.28

[# 7772]

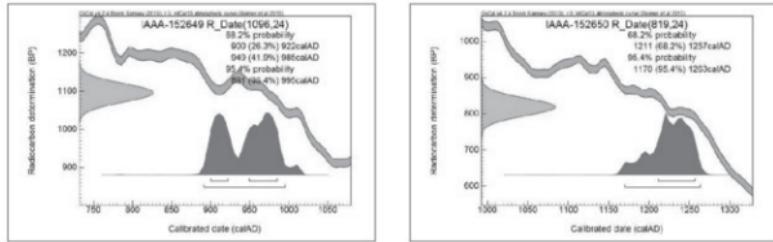
表2 放射性炭素年代測定結果(δ¹⁴C未補正值、历年較正用¹⁴C年代、較正年代)

測定番号	δ ¹⁴ C 補正なし		历年較正用 (yrBP)	1 σ 历年年代範囲	2 σ 历年年代範囲
	Age(yrBP)	pMC (%)			
IAAA-152649	$1,090 \pm 20$	87.36 ± 0.26	$1,096 \pm 24$	900calAD - 922calAD (26.3%) 949calAD - 985calAD (41.9%)	891calAD - 995calAD (95.4%)
IAAA-152650	820 ± 20	90.28 ± 0.27	819 ± 24	1211calAD - 1257calAD (68.2%)	1170calAD - 1263calAD (95.4%)

[参考値]

文献

- Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360
- Reimer, P. J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0–50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 55(4), 1869–1887
- Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, *Radiocarbon* 19(3), 355–363



[図版]曆年校正年代グラフ(参考)

VI 総括（調査のまとめ）

野外調査で得られた成果と分析鑑定によって明らかになつたこと、周辺遺跡の調査状況などを合わせて現段階で推察される遺跡の内容について以下に列記して調査のまとめに代えたい。

- ・遺跡は宮古湾の最奥部、重茂半島の付根部分に位置する。主に西側（海側）へ面する緩斜面地（南側調査区）と西へ張り出す尾根及び山裾部（北側調査区）にあたり、赤前地区および宮古湾内や津軽石川河口部に広がる平野を望める場所にある。

<南側調査区>

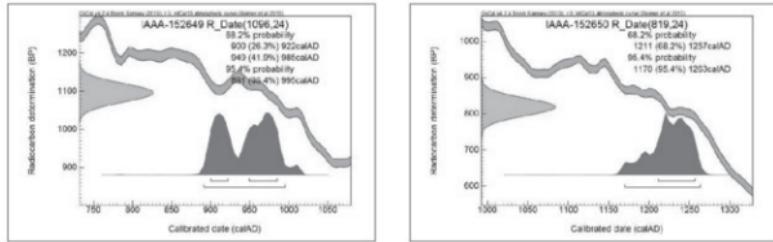
- ・緩斜面部からは平安時代の堅穴住居跡が1棟、縄文時代の堅穴住居跡1棟が見つかっている。過去の調査により、この緩斜面からは縄文時代、平安時代他の遺構・遺物が数多く確認されており、断続的ではあるが頻繁に集落として利用されていた場所であった。今回の調査区が、この緩斜面部の中でも標高の高いところであり、北側は浅い沢状の地形になっていたこと、検出遺構がこれまでの調査に比べて少なくなっていることなどから、集落の縁辺部にあたるような場所を調査したと考えている。

<北側調査区>

- ・調査区北側の尾根部からは古代の炭窯1基、縄文時代の陥し穴1基とプラスコ状土坑2基、近世墓約75基が見つかっている。
- ・陥し穴は長軸が約4mと通常のものよりも大きい。単独での検出で周囲からは陥し穴が検出されなかつた。調査区外へ展開すると仮定するならば西側しか可能性がないのだが、地形的に数基程度の空間しかなく、狩猟の場として頻繁に使われていた場所ではないと考えている。
- ・貯蔵穴（プラスコ状土坑）は2基見つかっているが、その周囲から堅穴住居跡は見つかっていない。基本的に角度ある斜面地形であるため住居を造るには適さなかつたのであろう。むしろ調査区外の西側がやや緩斜面となっているので居住域となっていたと推察される。
- ・中世の炭窯は1基のみの検出であった。採取した炭粒の年代測定から時期決定した。長軸方向で5.7m以上ある伏焼きの炭窯で、底面付近のみが残存していた。この炭窯の端部が調査区外の東側へと延びていること、その調査区外の東側は現在、墓地になっているが斜面はそれほど急ではないことなどから、こちらに炭窯が複数分布していても不自然ではない。
- ・近世墓は現在も墓地となっていた場所を中心に分布していた。73基を登録しているが、事前に改葬が行われており本来はもう少し多かったといえる。何れも土壙墓で火葬墓は無い。平面形が隅丸方形を基調とするものが多く、長方形基調のものは殆ど無い。1.5mを超えるような深い墓壙が多いのも特徴の一つと言える。
- ・墓壙に副葬されていた遺物には陶磁器、鉄鍋、刀子類、錢貨、煙管、簪、鏡、木箱？等があり、棺に使われていたとみられる鉄釘も出土している。これらの遺物を見る限り18世紀以降の墓が多く、18世紀後半から19世紀前半が中心である。17世紀より古い段階の墓はない。最も新しい墓は明治20年代であった。
- ・多量の錢貨が出土しているが「縛」の状態で副葬され、中には密着して剥がれないものも多く種類が分からぬるものもあった。所謂鉄錢とみられるもの多くあったが腐食が進んでおり判読できたものはない。
- ・鉄鍋を伏せた状態で副葬されていた墓壙が3例あった。墓壙そのものの形態は他と変わらない。配置を見るとSK29が少し離れた場所に位置している。

文献

- Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360
- Reimer, P. J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0–50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 55(4), 1869–1887
- Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, *Radiocarbon* 19(3), 355–363



[図版]曆年校正年代グラフ(参考)

VI 総括（調査のまとめ）

野外調査で得られた成果と分析鑑定によって明らかになつたこと、周辺遺跡の調査状況などを合わせて現段階で推察される遺跡の内容について以下に列記して調査のまとめに代えたい。

- ・遺跡は宮古湾の最奥部、重茂半島の付根部分に位置する。主に西側（海側）へ面する緩斜面地（南側調査区）と西へ張り出す尾根及び山裾部（北側調査区）にあたり、赤前地区および宮古湾内や津軽石川河口部に広がる平野を望める場所にある。

<南側調査区>

- ・緩斜面からは平安時代の堅穴住居跡が1棟、縄文時代の堅穴住居跡1棟が見つかっている。過去の調査により、この緩斜面からは縄文時代、平安時代他の遺構・遺物が数多く確認されており、断続的ではあるが頻繁に集落として利用されていた場所であった。今回の調査区が、この緩斜面部の中でも標高の高いところであり、北側は浅い沢状の地形になっていたこと、検出遺構がこれまでの調査に比べて少なくなっていることなどから、集落の縁辺部にあたるような場所を調査したと考えている。

<北側調査区>

- ・調査区北側の尾根部からは古代の炭窯1基、縄文時代の陥し穴1基とプラスコ状土坑2基、近世墓約75基が見つかっている。
- ・陥し穴は長軸が約4mと通常のものよりも大きい。単独での検出で周囲からは陥し穴が検出されなかつた。調査区外へ展開すると仮定するならば西側しか可能性がないのだが、地形的に数基程度の空間しかなく、狩猟の場として頻繁に使われていた場所ではないと考えている。
- ・貯蔵穴（プラスコ状土坑）は2基見つかっているが、その周囲から堅穴住居跡は見つかっていない。基本的に角度ある斜面地形であるため住居を造るには適さなかつたのであろう。むしろ調査区外の西側がやや緩斜面となっているので居住域となっていたと推察される。
- ・中世の炭窯は1基のみの検出であった。採取した炭粒の年代測定から時期決定した。長軸方向で5.7m以上ある伏焼きの炭窯で、底面付近のみが残存していた。この炭窯の端部が調査区外の東側へと延びていること、その調査区外の東側は現在、墓地になっているが斜面はそれほど急ではないことなどから、こちらに炭窯が複数分布していても不自然ではない。
- ・近世墓は現在も墓地となっていた場所を中心に分布していた。73基を登録しているが、事前に改葬が行われており本来はもう少し多かったといえる。何れも土壙墓で火葬墓は無い。平面形が隅丸方形を基調とするものが多く、長方形基調のものは殆ど無い。1.5mを超えるような深い墓壙が多いのも特徴の一つと言える。
- ・墓壙に副葬されていた遺物には陶磁器、鉄鍋、刀子類、錢貨、煙管、簪、鏡、木箱？等があり、棺に使われていたとみられる鉄釘も出土している。これらの遺物を見る限り18世紀以降の墓が多く、18世紀後半から19世紀前半が中心である。17世紀より古い段階の墓はない。最も新しい墓は明治20年代であった。
- ・多量の錢貨が出土しているが「縛」の状態で副葬され、中には密着して剥がれないものも多く種類が分からぬるものもあった。所謂鉄錢とみられるもの多くあったが腐食が進んでおり判読できたものはない。
- ・鉄鍋を伏せた状態で副葬されていた墓壙が3例あった。墓壙そのものの形態は他と変わらない。配置を見るとSK29が少し離れた場所に位置している。

写 真 図 版



写真図版 1 北側調査区近景（上が北）



遺跡遠景（南から）



遺跡遠景（北西から）

写真図版2 遺跡遠景



南側調査区近景（上が西）



南側調査区近景（南から）

写真図版3 遺跡近景



S I O 1 平面（東から）



S I O 1 断面（東から）



S I O 1 内小鋳冶炉 1 平面（南東から）



S I O 1 小鋳冶炉 1 断面（北から）

写真図版 4 S I O 1 竪穴住居跡 1



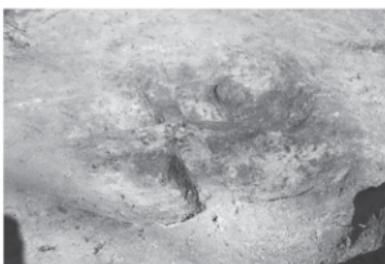
S I O 1 平面（南から）



S I O 1 内小鍛冶炉 2 探出（南西から）



S I O 1 内小鍛冶炉 2 平面（南西から）



S I O 1 内小鍛冶炉 2 断面（南東から）



S I O 1 内小鍛冶炉 2 断面（南西から）

写真図版 5 S I O 1 積穴住居跡 2



S I O 2 検出状況（この段階で床面上）（南から）



S I O 2 貼床断面（南から）



S I O 2 炉跡平面（南から）



S I O 2 炉跡平面（北から）

写真図版6 S I O 2 竪穴住居跡



S102平面（南から）



S102炉跡断面（東から）



S102炉跡断面（南から）



S102炉跡断面（東から）



基本土層（東から）

写真図版7 S102竪穴住居跡・基本土層



S X O 1 炭窯跡平面（西から）



S X O 1 炭窯跡（浅い表土の直下で検出した）（西から）

写真図版8 S X O 1 炭窯跡1



S X O 1 炭窯跡平面（西から）



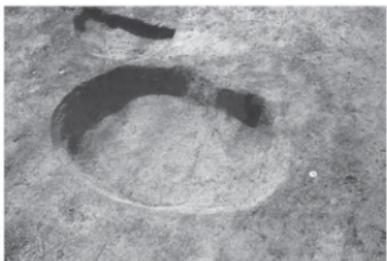
S X O 1 炭窯跡と S K 2 3 断面（西から）



S X O 1 炭窯跡と S K 1 4 断面（南から）



S X O 1 炭窯跡断面（南から）



S K O 1 平面（東から）



S K O 1 断面（東から）

写真図版9 SXO 1炭窯跡2、土坑・墓壙1



SKO 2 平面 (北から)



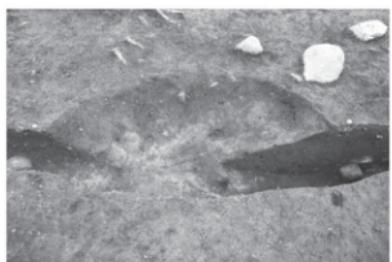
SKO 2 断面 (南から)



SKO 3 断面 (東から)



SKO 3 断面 (南から)



SKO 4 平面 (南東から)



SKO 4 断面 (東から)



SKO 6・07・09 平面 (西から)



SKO 6・07・09 断面 (西から)

写真図版10 土坑・墓塚2